

高石市人口ビジョン



(令和2年改訂版)

令和2年3月



第1章	はじめに	2
第2章	高石市の人口動向分析	4
2-1	総編	5
2-2	自然増減	7
2-3	社会増減	16
2-4	まとめ	21
第3章	地域状況分析	23
3-1	住宅	24
3-2	観光・交流	32
3-3	就業	36
3-4	企業・事業所	42
第4章	将来人口推計	47
4-1	国の長期ビジョンにおける人口推計	48
4-2	人口動向分析等に基づく高石市の状況の整理	49
第5章	めざすべき将来の方向性	55
5-1	高石市のめざすべき方向性	56
5-2	めざすべき方向性を踏まえた将来人口推計	57

第1章 はじめに





- 人口減少に歯止めをかけるとともに、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことは国家的な課題であり、地方公共団体としても、国の取組みに合わせて、地域の実情に応じた取組みを実施していく必要があります。
- 国は、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を策定し、第1期の総合戦略に取り組んできました。令和元年12月には、長期ビジョンが改訂されましたが、しごとの創生については一定の成果はあるものの、人口減少は今後も続き、危機的な状況に変化が生じたわけではないとされています。
- 高石市は、昭和30年代後半に臨海工業地帯が造成され、臨海部の企業の社宅建設や大阪中心部へのアクセスの良さなどから、ベッドタウンとして人口が急増し、昭和60年には、66,974人（国勢調査）のピークを迎えました。
- その後は、ゆるやかな減少が続き、平成27年には56,529人となっています。また、高度経済成長期に建設された企業の社宅や開発住宅等は、次第に老朽化、建替えや売却が進む一方で、高齢化・核家族化により、低未利用となるケースもあります。
- 高石市においても、第1期の総合戦略の成果と課題を踏まえ第2期に向けてさらなる取り組みを進めるため、このたび「高石市人口ビジョン」を改訂し、様々な現状分析のもと、今後の展望を行います。

第2章 高石市の人口動向分析

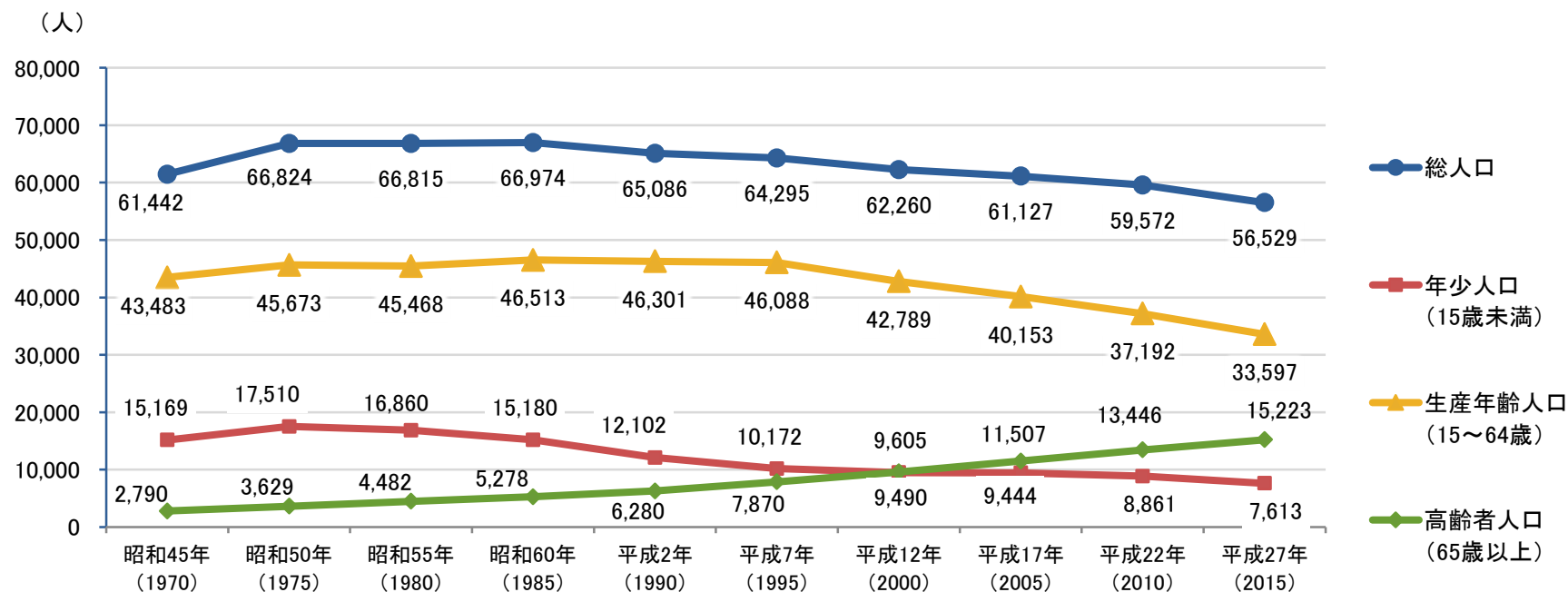


第2章 高石市の人口動向分析



2-1 総編

総人口・年齢3区分別人口の推移



出典：総務省「国勢調査」

高石市の総人口は昭和60年頃より減少しつづけている一方、高齢者人口は一貫して増加を続け、平成12年には年少人口を上回っています。

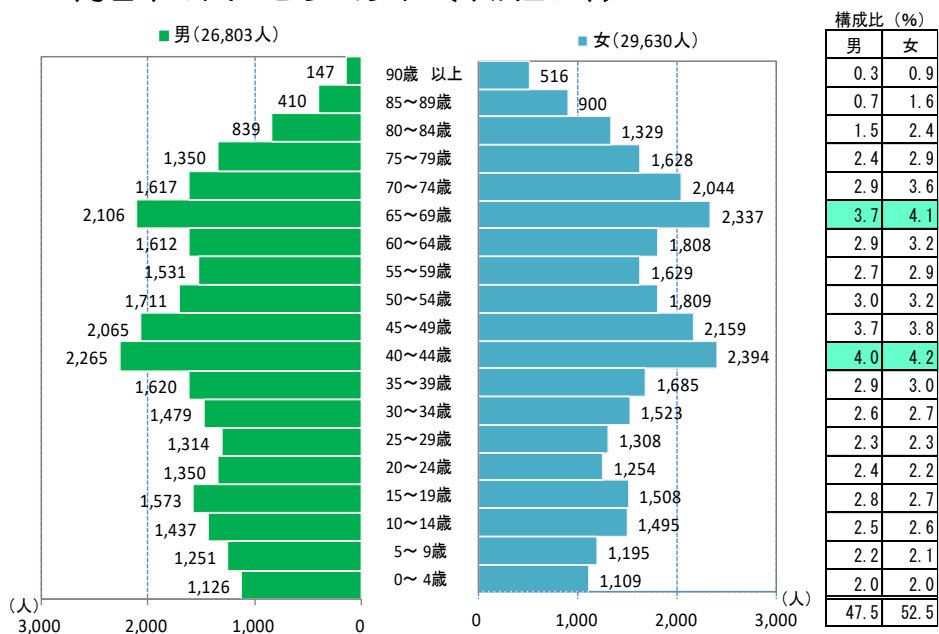
第2章 高石市の人口動向分析



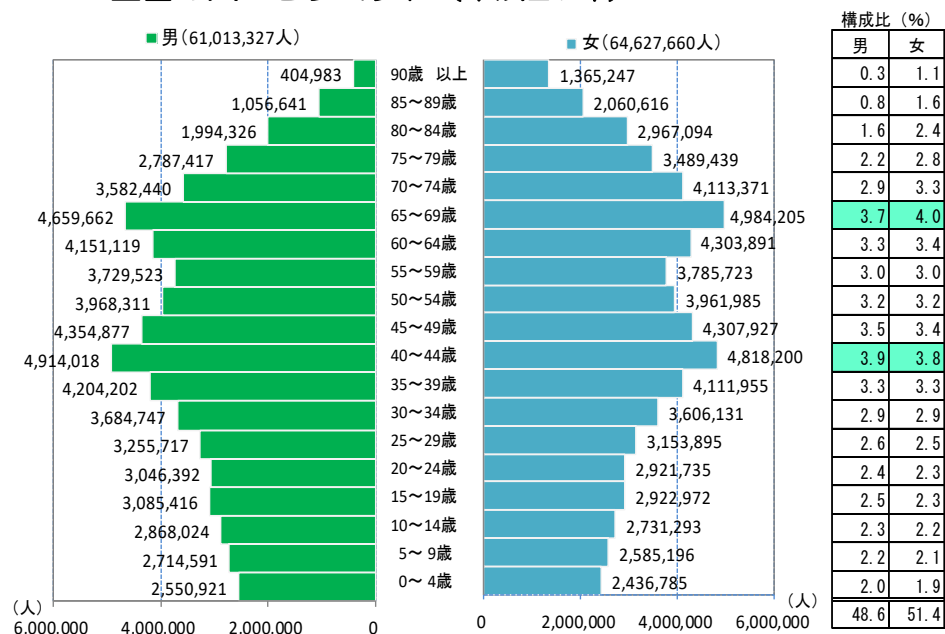
2-1 総編

人口構造

高石市の人口ピラミッド（平成27年）



全国の人口ピラミッド（平成27年）



出典：総務省「国勢調査」

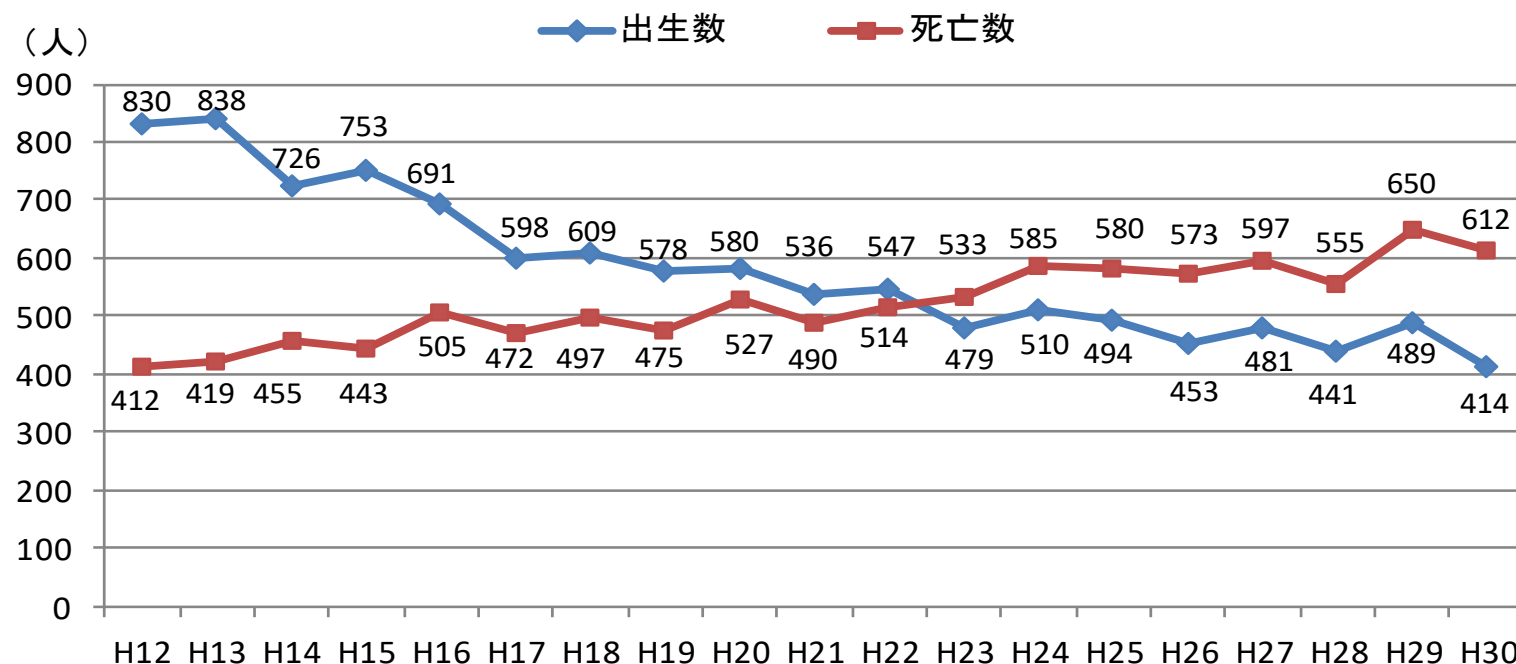
高石市の人口構造を見ると、全国の傾向と同様に団塊世代と団塊ジュニア世代の人口ボリュームが大きくなっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-2 自然増減

出生数・死亡数の推移



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

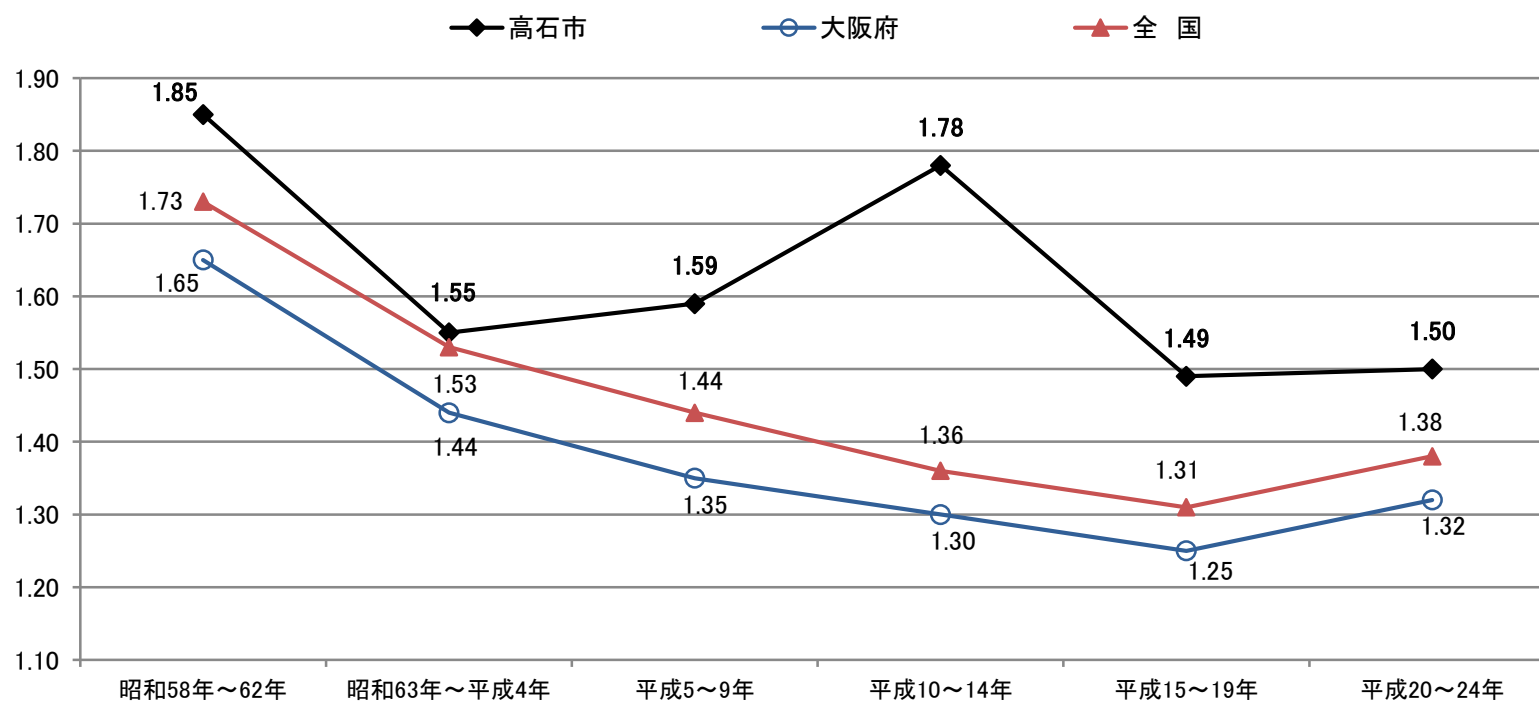
出生数は減少傾向になっていく一方で、死亡数は年々増加傾向にあり、平成23年の時点で、死亡数が出生数を上回る「自然減」に転じています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-2 自然増減

合計特殊出生率の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」

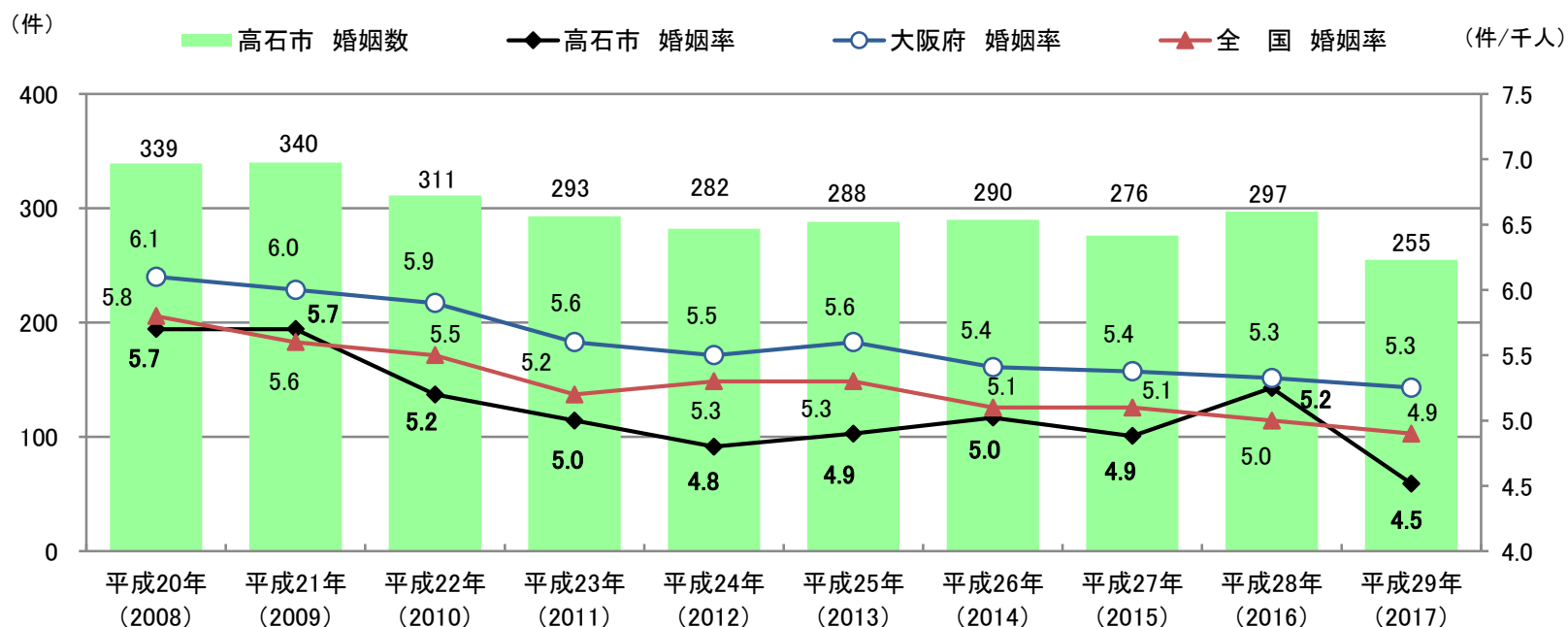
高石市の合計特殊出生率は、全国平均・大阪府平均を上回っており、近年は1.5前後となっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-2 自然増減

婚姻の推移



出典：大阪府人口動態統計

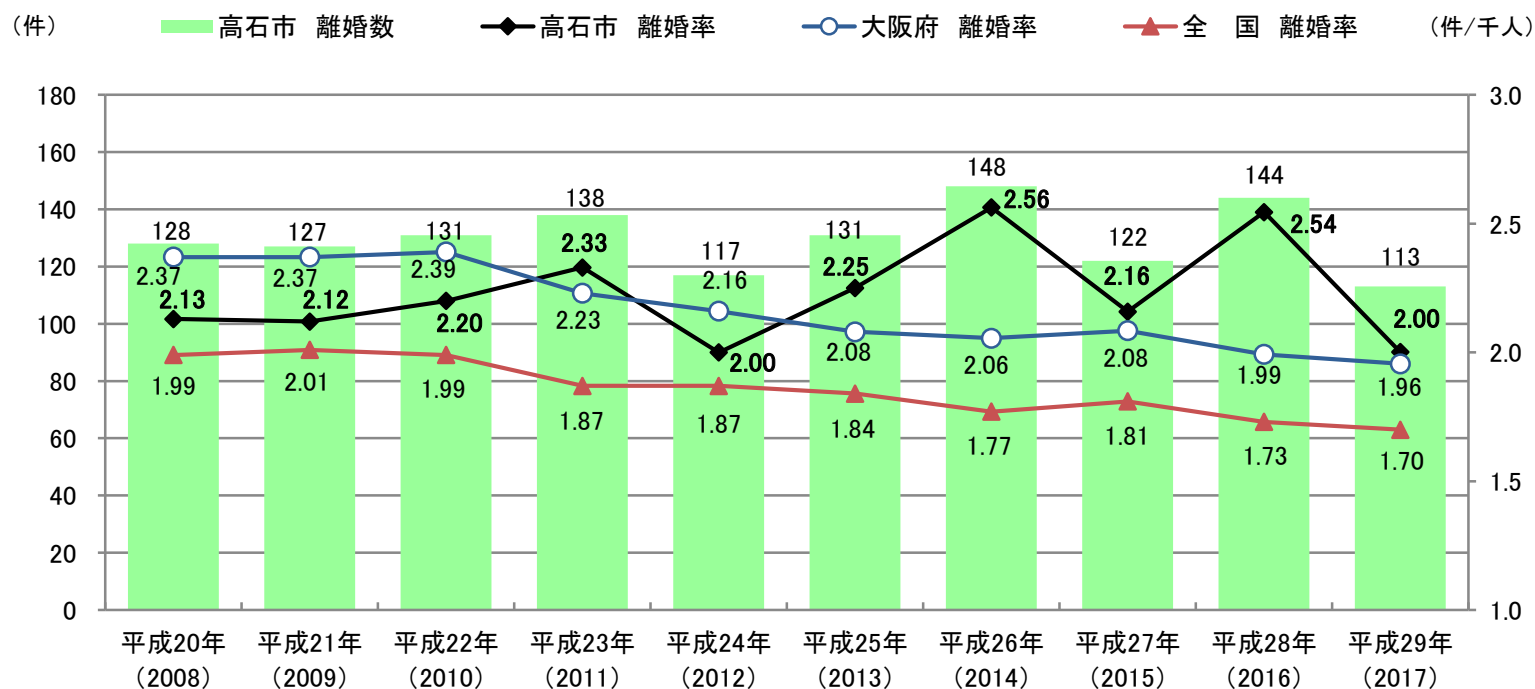
高石市の婚姻率は、全国平均・大阪府平均と比較しても低く推移しています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-2 自然増減

離婚の推移



出典：大阪府人口動態統計

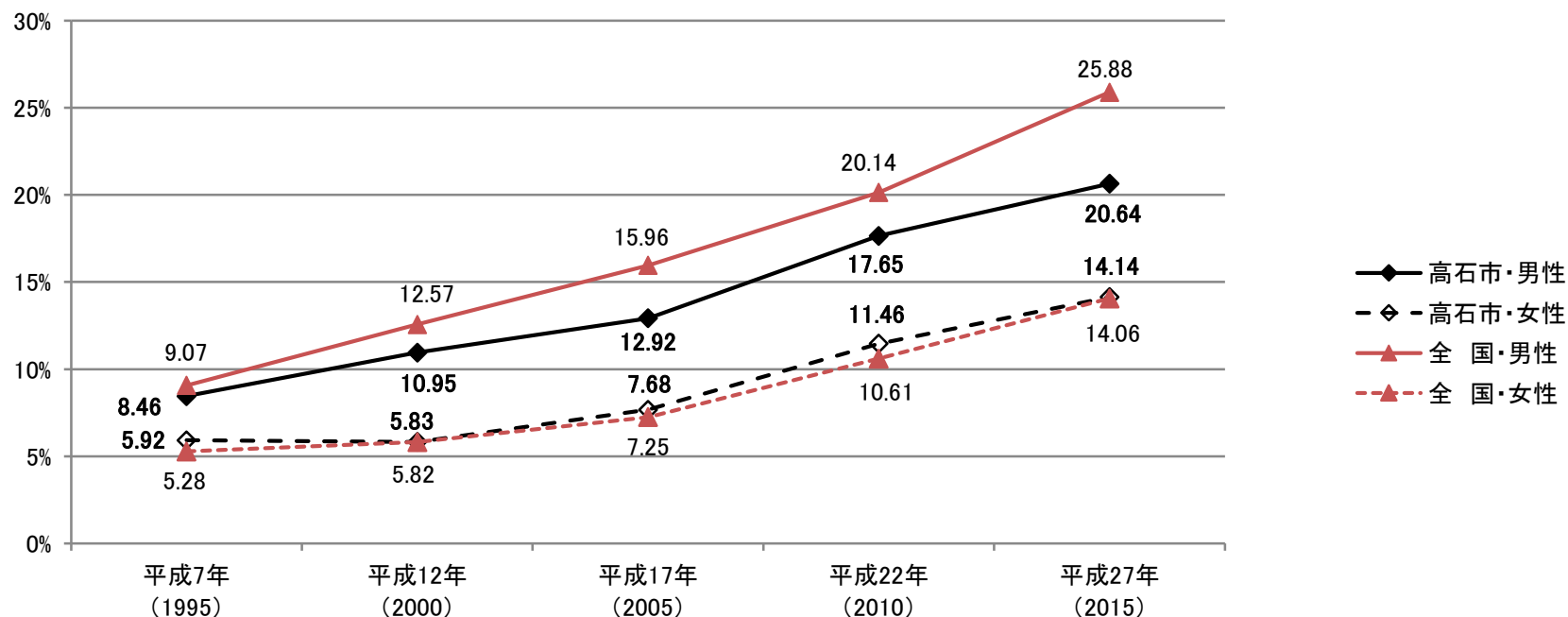
高石市の離婚率は、年によって変動していますが、全体的な傾向を見ると、全国平均より高くなっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-2 自然増減

生涯未婚率※の推移



出典：総務省「国勢調査」

高石市の生涯未婚率は、男女とも上昇しており、全国平均と比較すると男性においては低くなっていますが、女性においては若干高くなっています。

※生涯未婚率：「45～49歳」と「50～54歳」の5歳階級ごとの人口に対する未婚者（未婚率）を出し、それぞれの平均値から50歳時の未婚率を算出したもの。

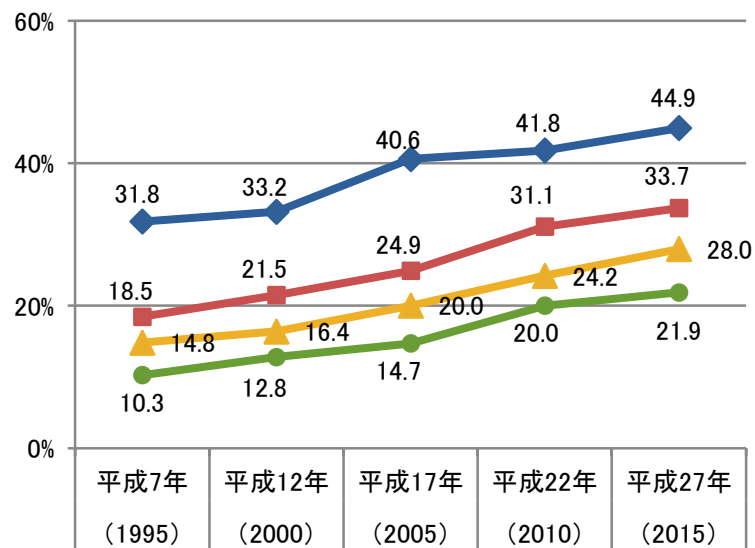
第2章 高石市の人口動向分析



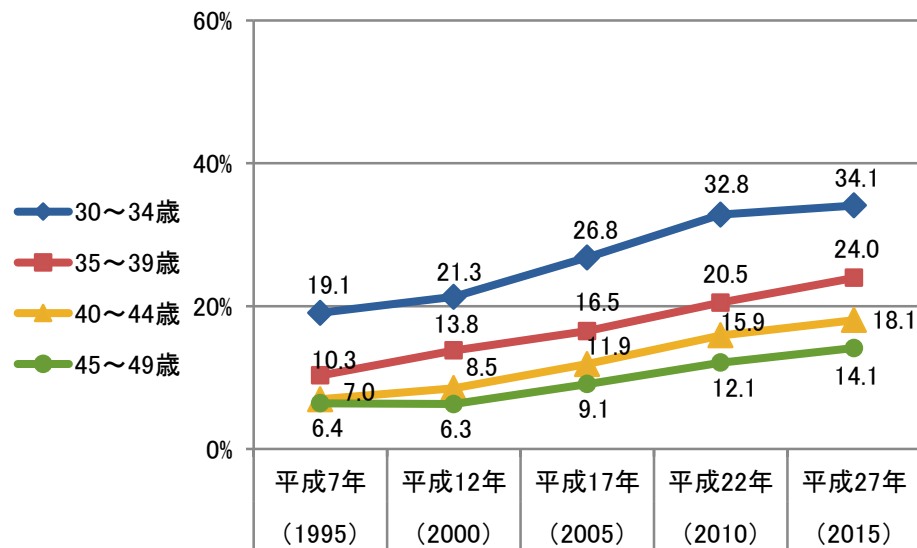
2-2 自然増減

未婚率の推移

男性



女性



出典：総務省「国勢調査」

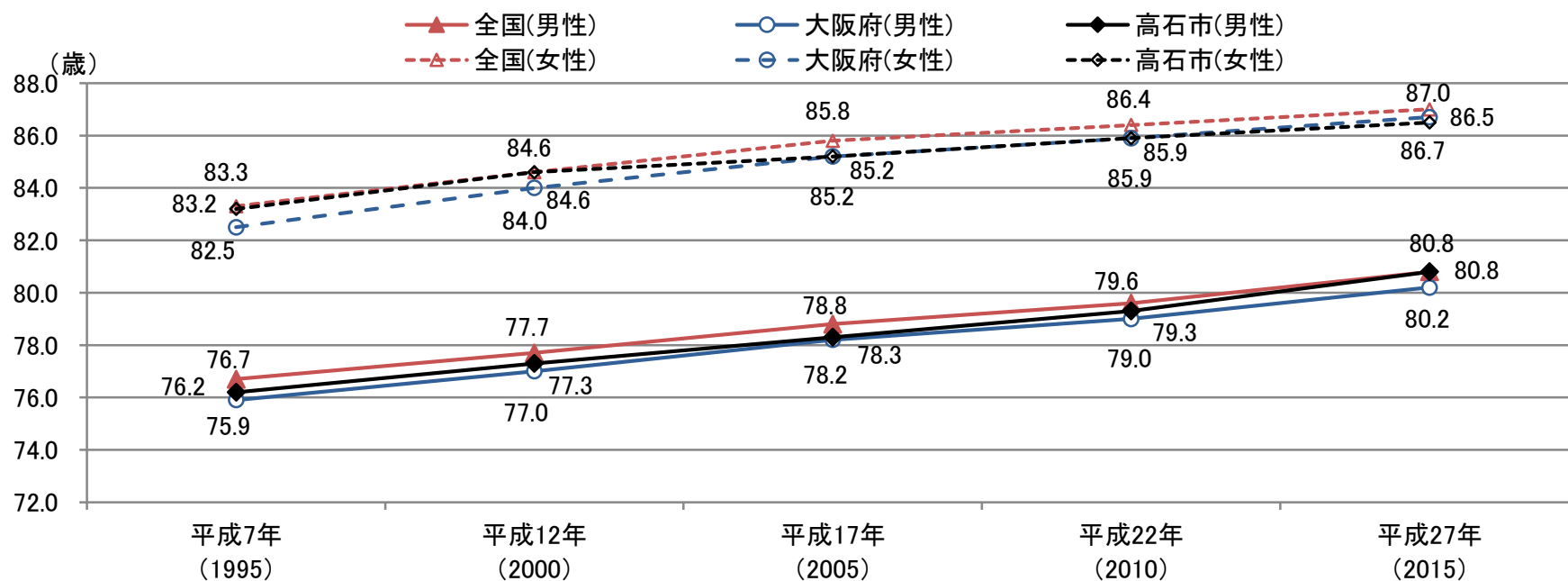
高石市の未婚率は、男女とも全年代において年々高くなっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-2 自然増減

平均寿命の推移



出典：厚生労働省「生命表」、厚生統計協会

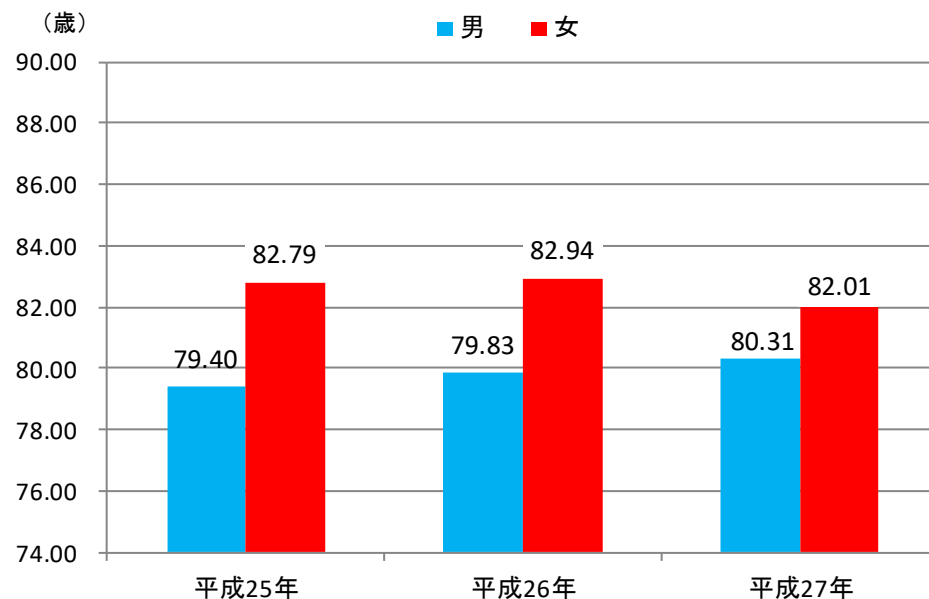
高石市の平均寿命は、年々延びており、全国平均とほぼ同程度となっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-2 自然増減

健康寿命の推移



※健康な状態を「日常生活動作が自立していること」と規定し、介護保険の要介護度の要介護2～5を不健康な状態、それ以外を健康な状態という条件のもと算定したもの。

【参考出典】

平成29年12月厚生労働科学研究の健康寿命計算プログラムを用いて算出

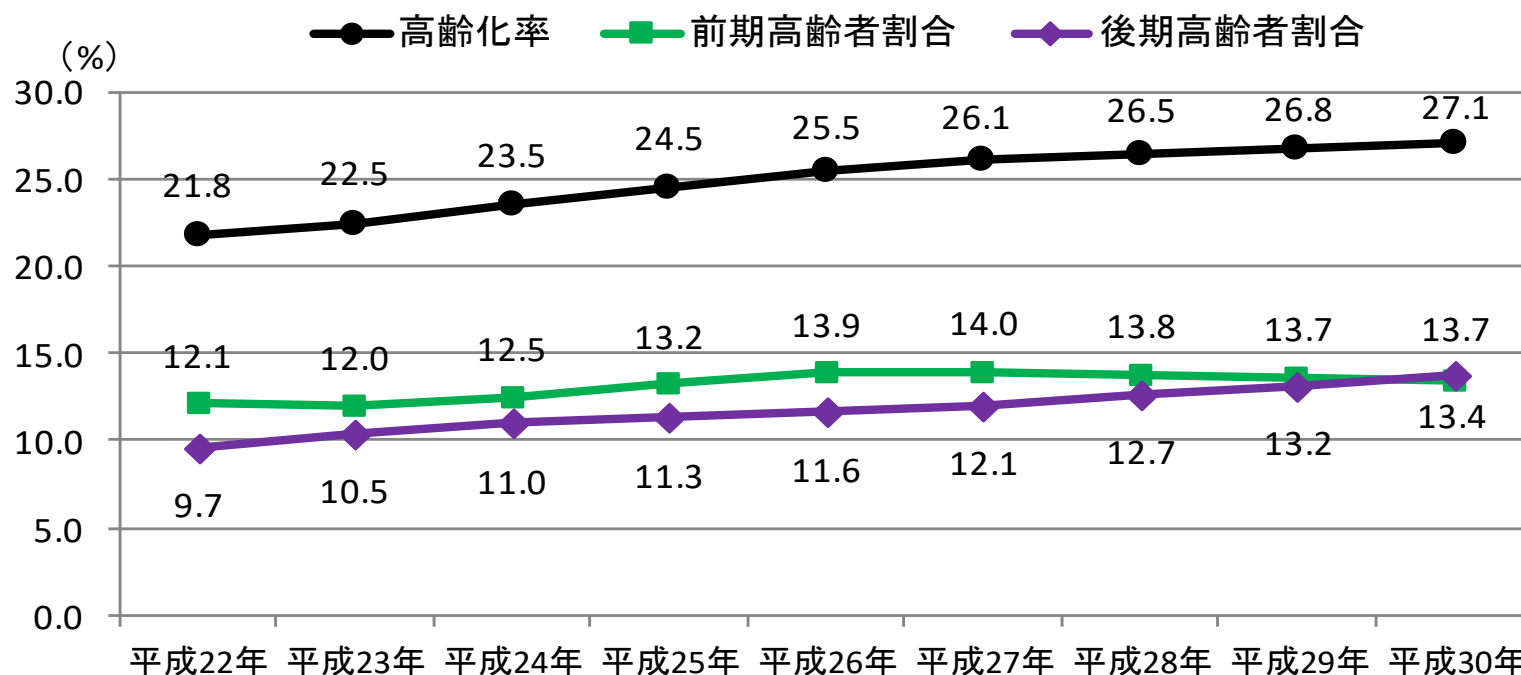
女性の健康寿命は、平成27年に下降しておりますが、男性の健康寿命は徐々に上昇しています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-2 自然増減

高齢化の推移



出典：高石市「住民基本台帳」

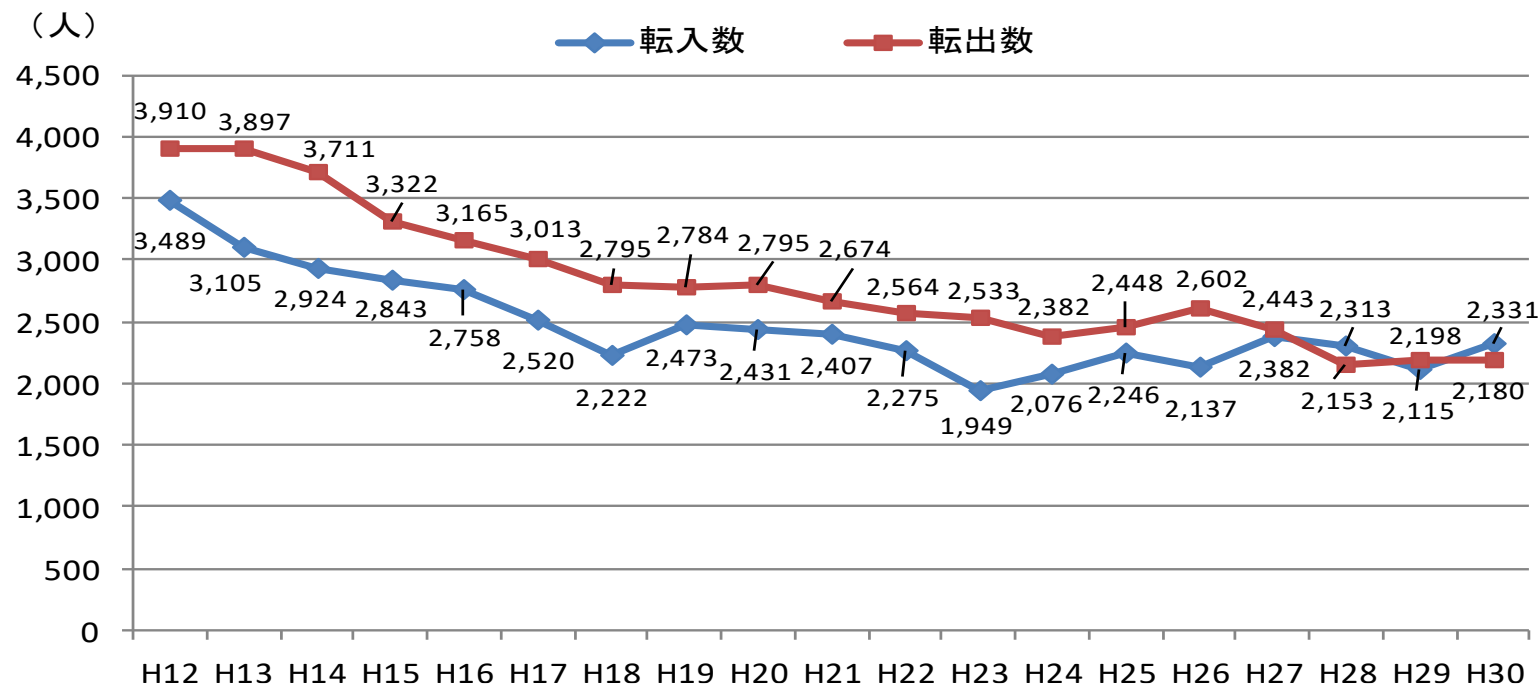
高石市の高齢化率は、年々高くなっており、4人に1人以上が65歳以上となっています。また、平成30年には前期高齢者と後期高齢者の割合が同程度となっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-3 社会増減

転出数・転入数の推移



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

高石市では、転出数が転入数を上回る「社会減」が続いておりましたが、平成28年に転入数が転出数を一時上回り、それ以降は横ばいとなっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-3 社会増減

転出先・転入元の状況

	転入数	転出数	移動数
府内	1,526	1,334	192
（大阪市）	276	239	37
（堺市）	505	467	38
（岸和田市）	110	61	49
（泉大津市）	160	118	42
（貝塚市）	34	29	5
（泉佐野市）	34	21	13
（和泉市）	149	178	▲ 29
（泉南市）	27	11	16
（阪南市）	17	16	1
（忠岡町）	17	20	▲ 3
（熊取町）	0	19	▲ 19
（田尻町）	0	0	0
（岬町）	15	0	15
（上記以外の府内）	182	155	27
府外	688	736	▲ 48
（近畿2府4県）	243	244	▲ 1
（近畿2府4県以外）	445	492	▲ 47
合 計	2,214	2,070	144

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」
（平成30年）

高石市への転入者・転出者の傾向は、概ね大阪府内からは流入超過となっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-3 社会増減

性別・年齢別転入・転出の状況

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（平成30年）

高石市

	人口の総数	総転出数	総転入数	純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	4,871	204	242	38	4.2%	5.0%	0.8%
10歳～19歳	5,963	122	146	24	2.0%	2.4%	0.4%
20歳～29歳	5,802	680	718	38	11.7%	12.4%	0.7%
30歳～39歳	6,332	451	497	46	7.1%	7.8%	0.7%
40歳～49歳	9,100	276	264	▲12	3.0%	2.9%	▲0.1%
50歳～59歳	7,121	141	140	▲1	2.0%	2.0%	▲0.0%
60歳以上	18,743	196	207	11	1.0%	1.1%	0.1%

	男性人口	男性の転出数	男性の転入数	男性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	2,460	103	114	11	4.2%	4.6%	0.4%
10歳～19歳	2,984	52	85	33	1.7%	2.8%	1.1%
20歳～29歳	3,034	379	385	6	12.5%	12.7%	0.2%
30歳～39歳	3,160	251	280	29	7.9%	8.9%	0.9%
40歳～49歳	4,463	148	134	▲14	3.3%	3.0%	▲0.3%
50歳～59歳	3,485	79	77	▲2	2.3%	2.2%	▲0.1%
60歳以上	8,153	89	95	6	1.1%	1.2%	0.1%

	女性人口	女性の転出数	女性の転入数	女性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	2,411	101	128	27	4.2%	5.3%	1.1%
10歳～19歳	2,979	70	61	▲9	2.3%	2.0%	▲0.3%
20歳～29歳	2,768	301	333	32	10.9%	12.0%	1.2%
30歳～39歳	3,172	200	217	17	6.3%	6.8%	0.5%
40歳～49歳	4,637	128	130	2	2.8%	2.8%	0.0%
50歳～59歳	3,636	62	63	1	1.7%	1.7%	0.0%
60歳以上	10,590	107	112	5	1.0%	1.1%	0.0%

大阪府

	人口の総数	総転出数	総転入数	純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	715,310	33,804	31,612	▲2,192	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	810,258	20,611	22,595	1,984	2.5%	2.8%	0.2%
20歳～29歳	945,996	143,972	150,298	6,326	15.2%	15.9%	0.7%
30歳～39歳	1,065,982	91,793	89,361	▲2,432	8.6%	8.4%	▲0.2%
40歳～49歳	1,410,380	44,267	44,298	31	3.1%	3.1%	0.0%
50歳～59歳	1,090,630	24,793	24,722	▲71	2.3%	2.3%	▲0.0%
60歳以上	2,817,863	38,540	37,282	▲1,258	1.4%	1.3%	▲0.0%

	男性人口	男性の転出数	男性の転入数	男性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	366,324	17,282	16,093	▲1,189	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	414,169	10,678	11,542	864	2.6%	2.8%	0.2%
20歳～29歳	473,633	74,856	75,430	574	15.8%	15.9%	0.1%
30歳～39歳	530,668	49,147	47,848	▲1,299	9.3%	9.0%	▲0.2%
40歳～49歳	702,284	25,122	25,103	▲19	3.6%	3.6%	▲0.0%
50歳～59歳	542,235	14,153	14,236	83	2.6%	2.6%	0.0%
60歳以上	1,249,025	17,528	16,812	▲716	1.4%	1.3%	▲0.1%

	女性人口	女性の転出数	女性の転入数	女性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	348,986	16,522	15,519	▲1,003	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	396,089	9,933	11,053	1,120	2.5%	2.8%	0.3%
20歳～29歳	472,363	69,116	74,868	5,752	14.6%	15.8%	1.2%
30歳～39歳	535,314	42,646	41,513	▲1,133	8.0%	7.8%	▲0.2%
40歳～49歳	708,096	19,145	19,195	50	2.7%	2.7%	0.0%
50歳～59歳	548,395	10,640	10,486	▲154	1.9%	1.9%	▲0.0%
60歳以上	1,568,838	21,012	20,470	▲542	1.3%	1.3%	▲0.0%

高石市への性別・年齢別の転入・転出状況は、出産・子育ての中心となる20歳代・30歳代において転入が転出を上回る社会増となっています。

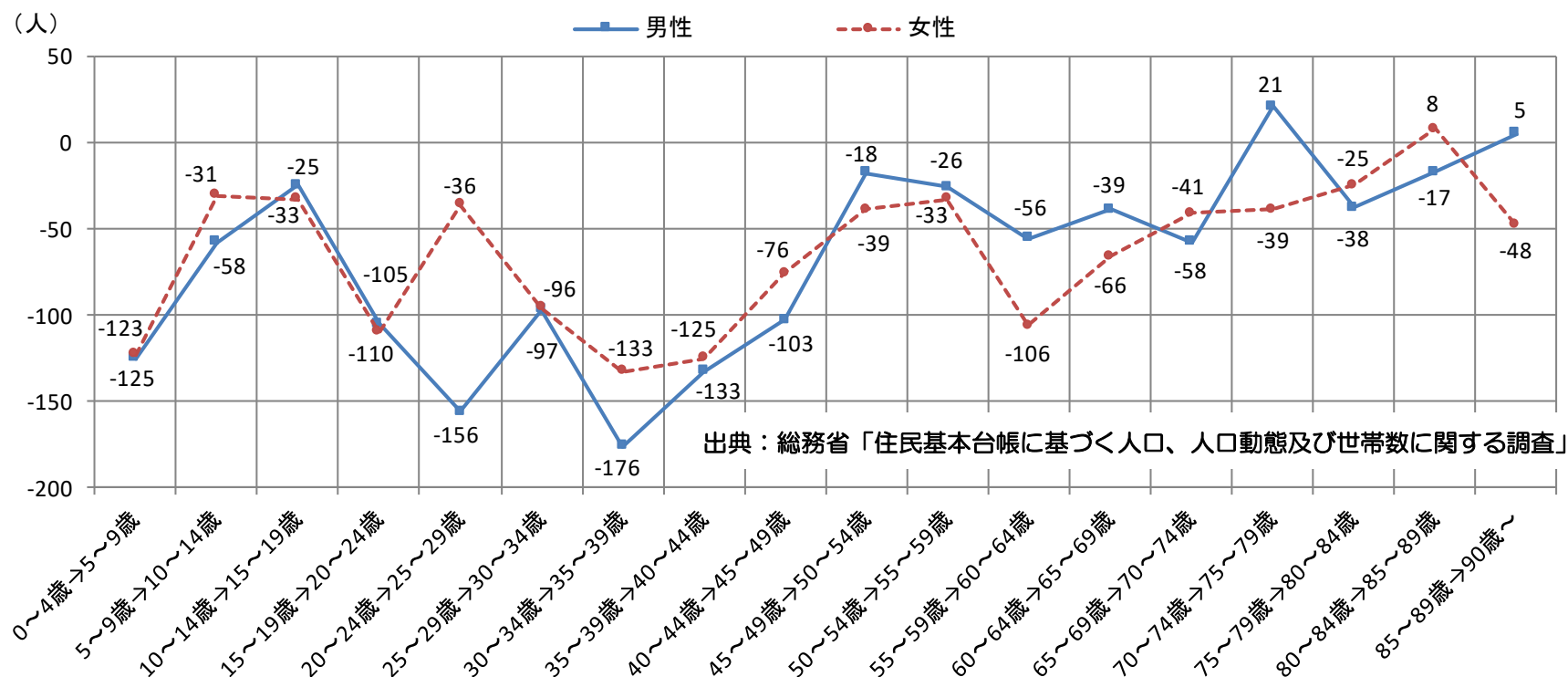
第2章 高石市の人口動向分析



2-3 社会増減

性別・年齢階級別純移動数の状況

〔平成22（2010）年～平成27（2015）年〕



近年の高石市の性別・年齢階級別の純移動数の状況は、0～4歳が5～9歳になる時期や、30～34歳が35～39歳になる時期の転出が多くなっています。

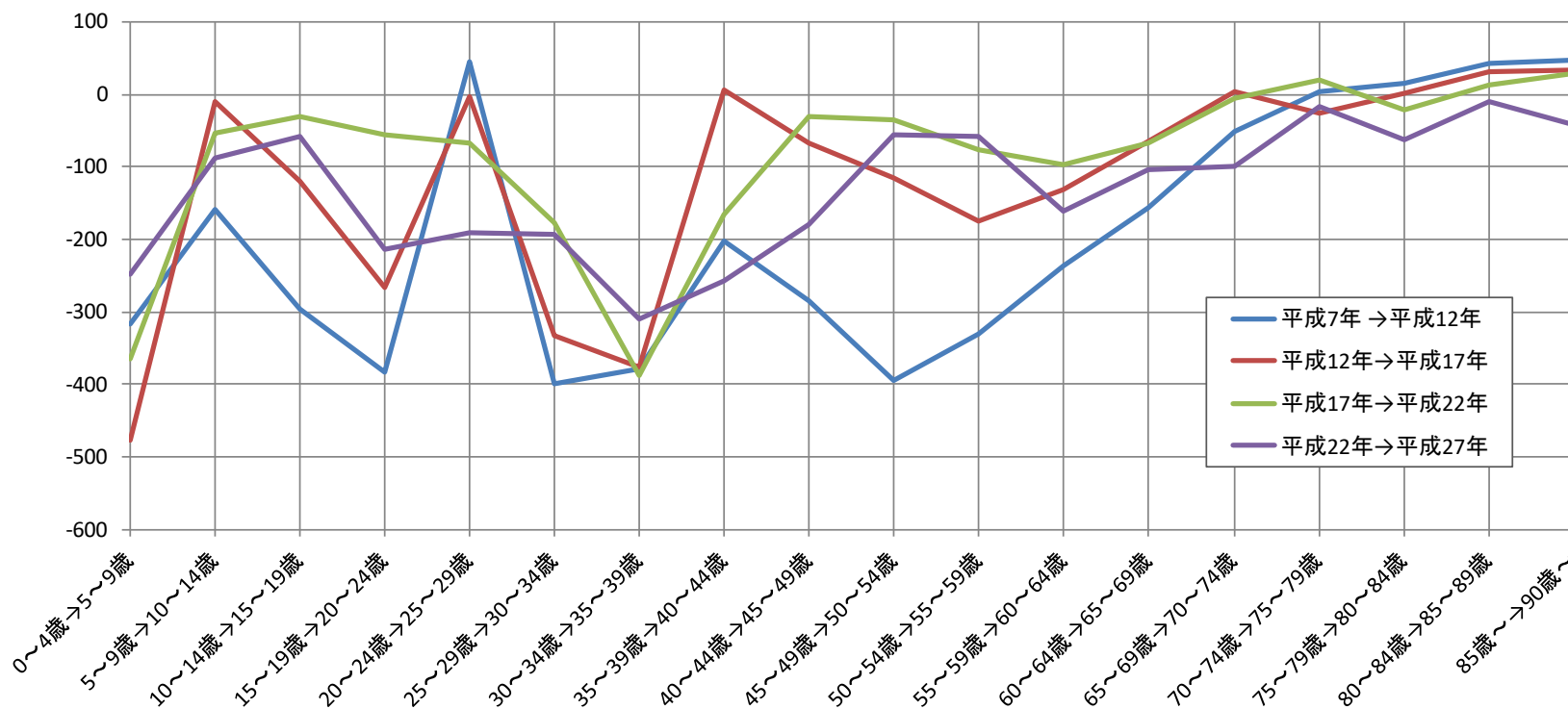
第2章 高石市の人口動向分析



2-3 社会増減

年齢別純移動数の推移

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」



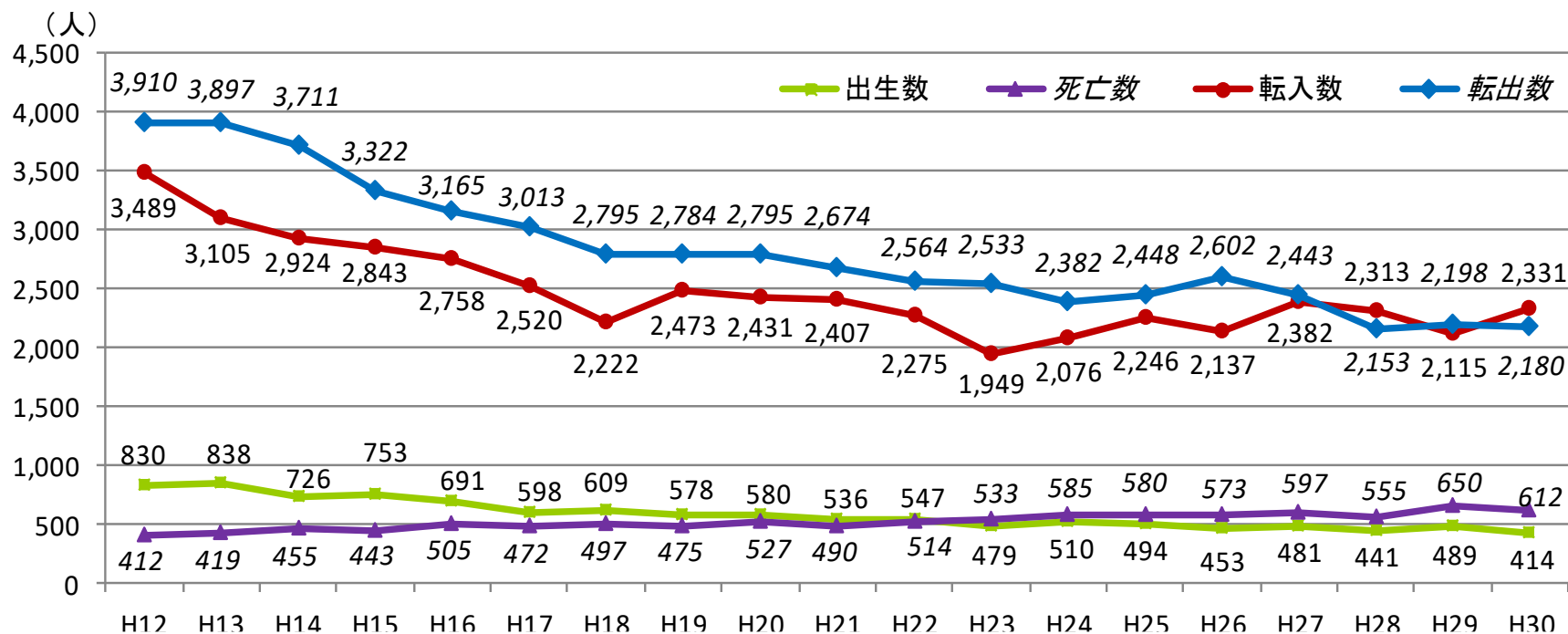
高石市の年齢別の純移動数は、20歳～24歳が25歳～29歳になる時期の転出超過が増加しておりますが、各年齢層においても転出超過はあるものの緩やかなものとなっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-4 まとめ

人口動向のまとめ1



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

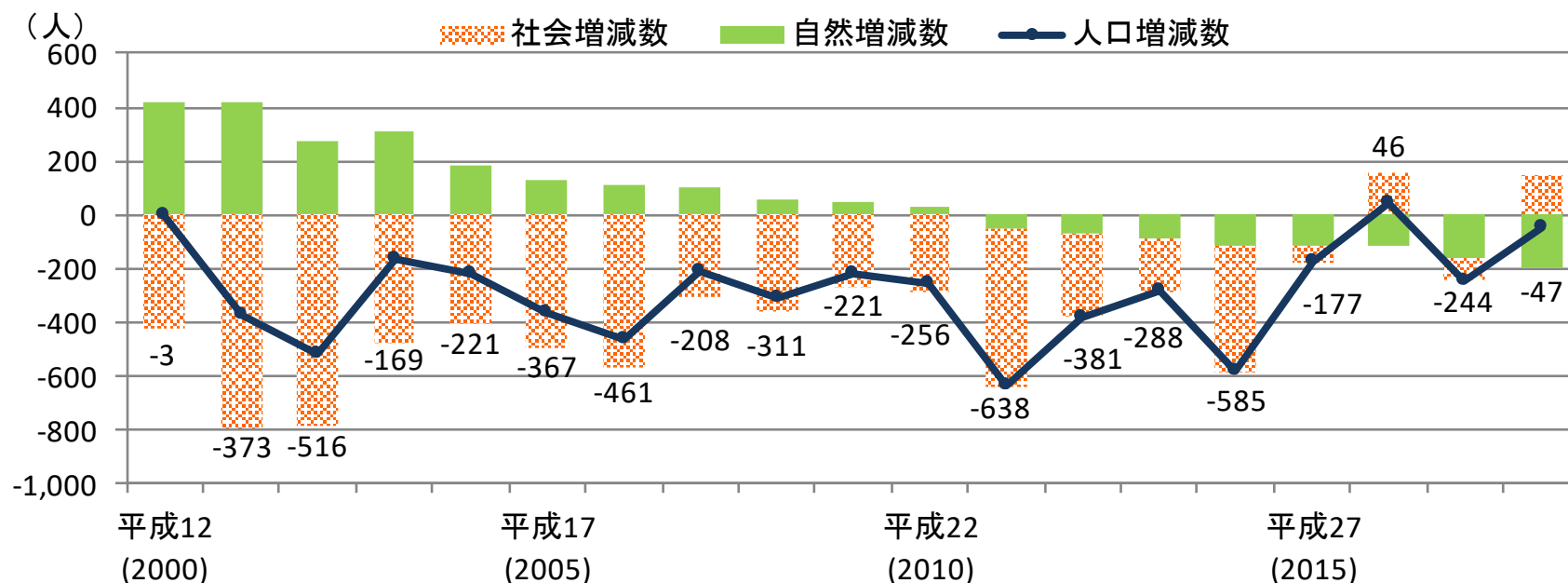
高石市では、社会減が続いておりましたが、平成28年に一時社会増となって以降は横ばいとなっています。

第2章 高石市の人口動向分析



2-4 まとめ

人口動向のまとめ2



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

高石市の人口動向は、自然増減数が減少傾向にある一方、社会増減数は平成28年以降一時増加に転じ、減少傾向が緩和されています。

第3章 地域状況分析

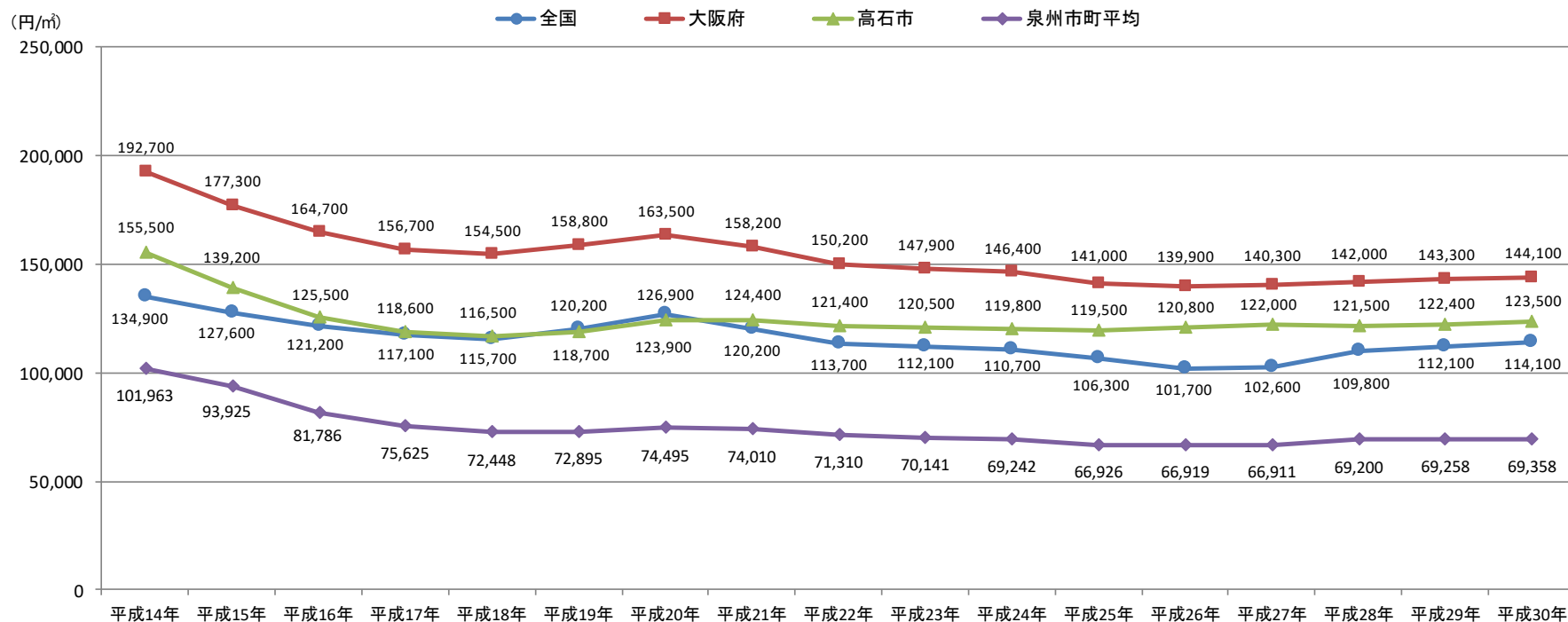


第3章 地域状況分析



3-1 住宅

地価額の推移



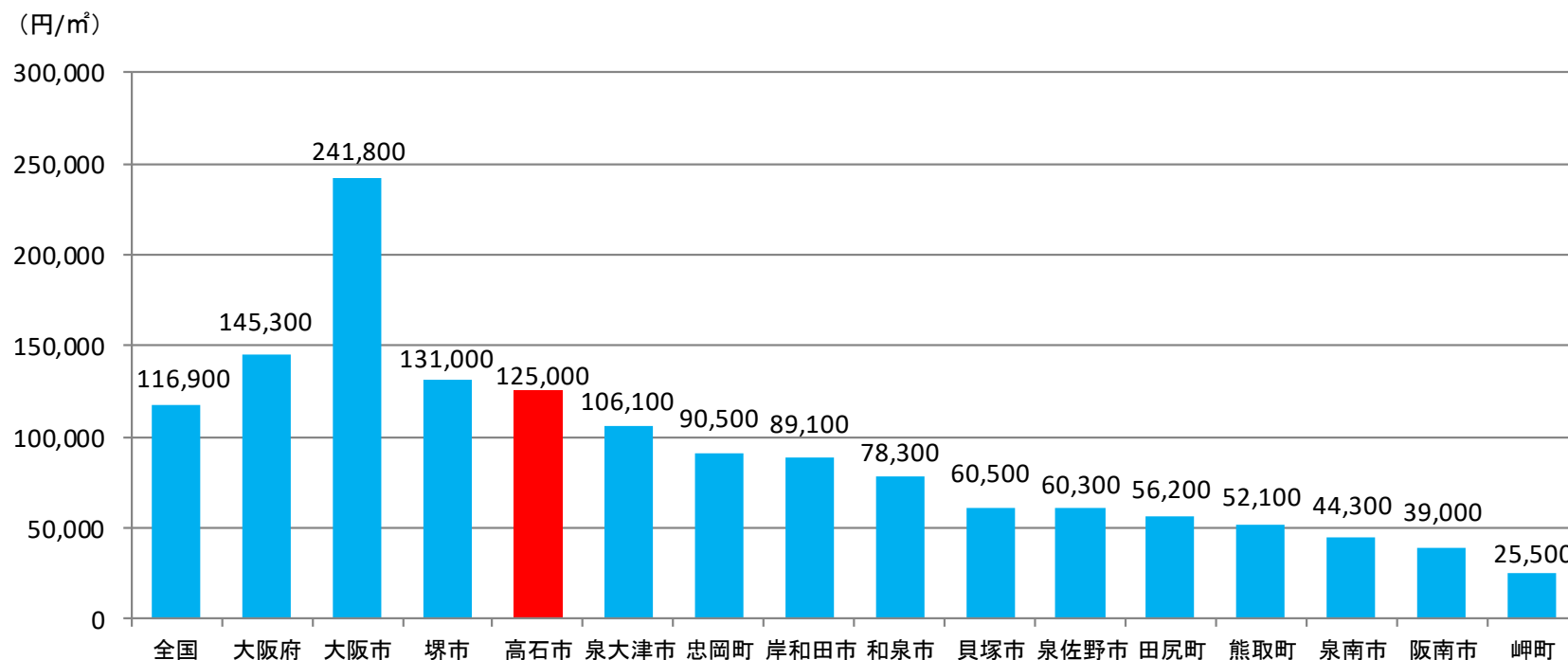
出典：国土交通省「公示地価」

高石市の地価額は、近年大きな変動がなく、横ばいで推移しています。また、大阪府平均と比較すると低くなっていますが、全国平均・泉州の他の市町と比較すると高くなっています。



3-1 住宅

地価額（泉州市町比較）



出典：国土交通省「公示地価」（平成30年）

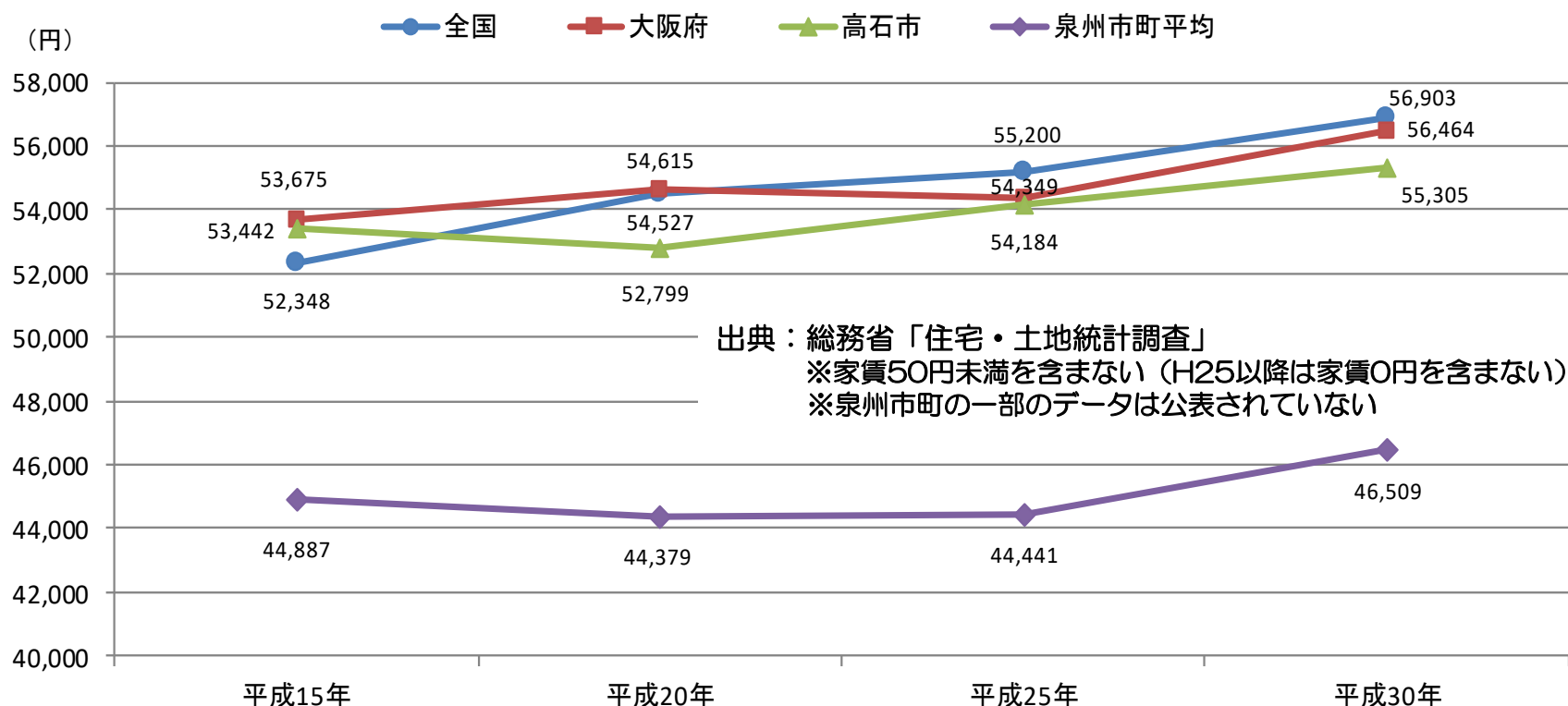
高石市の地価額は、大阪府平均を下回っていますが、泉州の他の市町と比較すると高くなっています。

第3章 地域状況分析



3-1 住宅

1 か月当たり家賃の推移

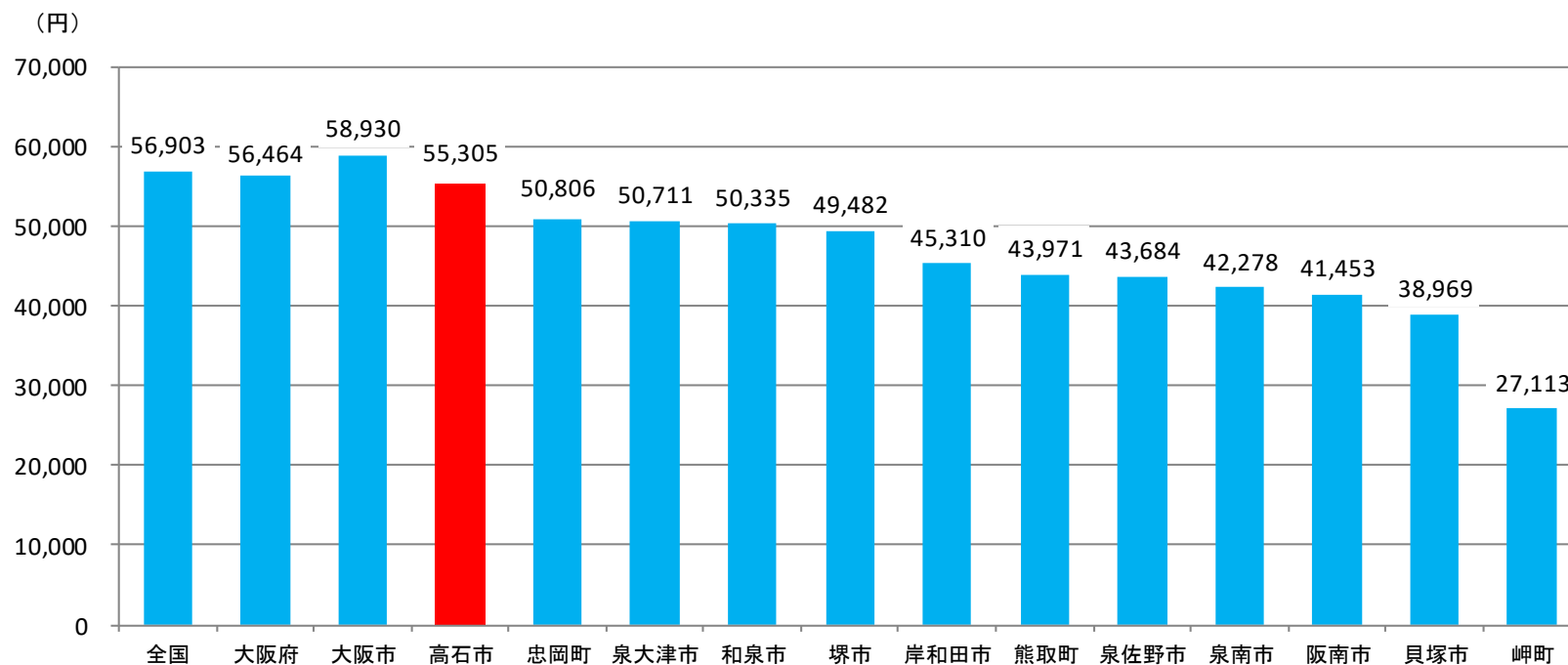


高石市の家賃は、近年、大阪府平均と同程度で推移しています。また、泉州の他の市町と比較すると高くなっています。



3-1 住宅

1 か月当たり家賃（泉州市町比較）



出典：総務省「住宅・土地統計調査」（平成30年）
※家賃0円未満を含まない

高石市の家賃は、大阪府平均を若干下回っていますが、泉州の他市町と比較すると高くなっています。

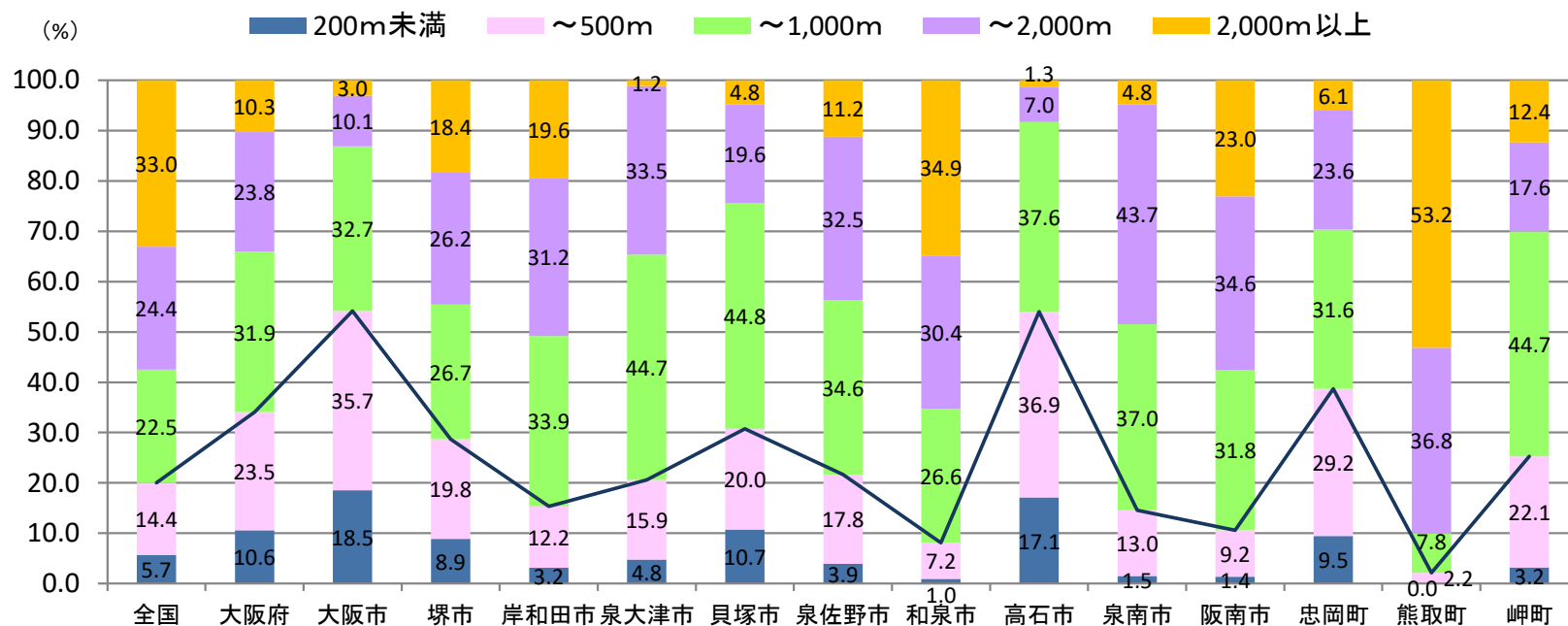
第3章 地域状況分析



3-1 住宅

最寄りの駅までの距離別住宅数（比率）

——：500m未満の割合



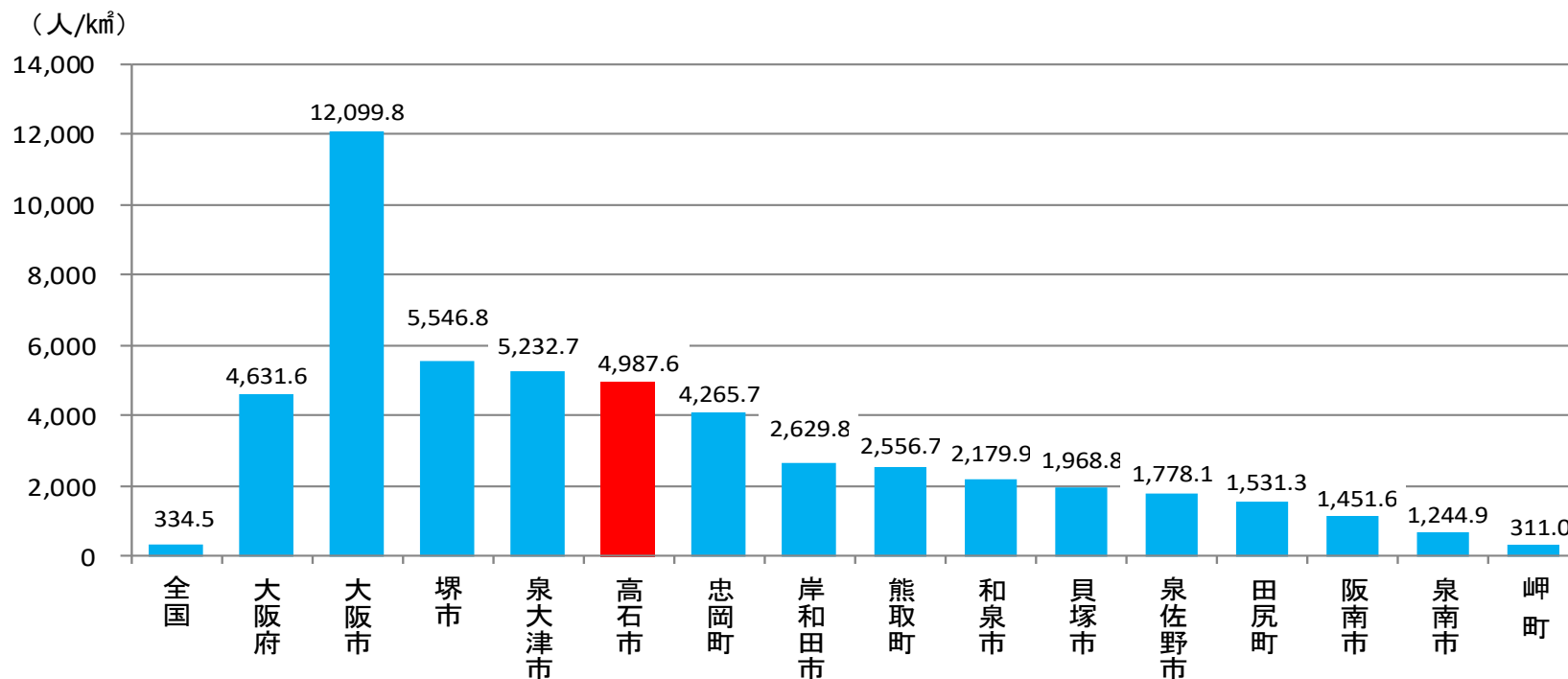
出典：総務省「住宅・土地統計調査」（平成25年）

高石市内の住宅は最寄りの駅までの距離が近く、50%以上の住宅は鉄道駅までの距離が500m未満となっています。



3-1 住宅

人口密度（泉州市町比較）



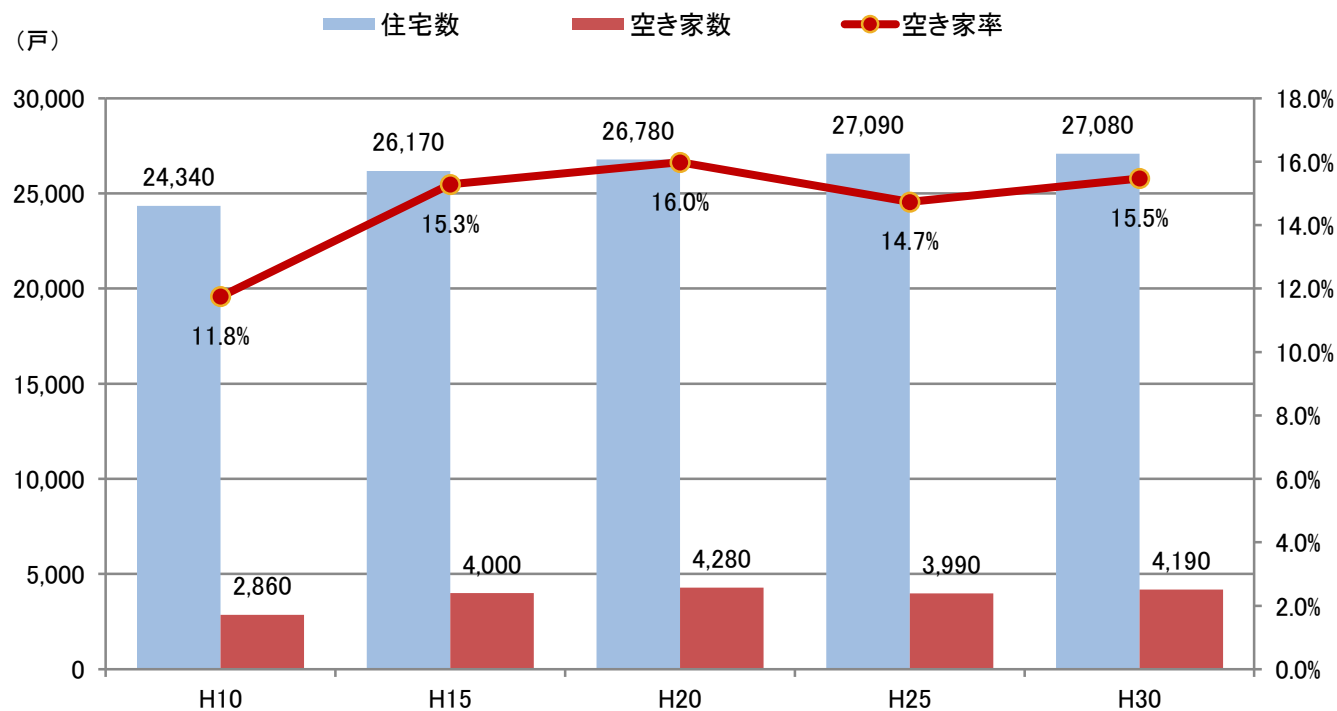
出典：大阪府推計人口、国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（平成30年）をもとに算出

高石市の人口密度は、大阪府平均を上回っており、市域の約半分が臨海コンビナートであることを考慮すれば、人口が非常に密集しているといえます。



3-1 住宅

空き家の推移



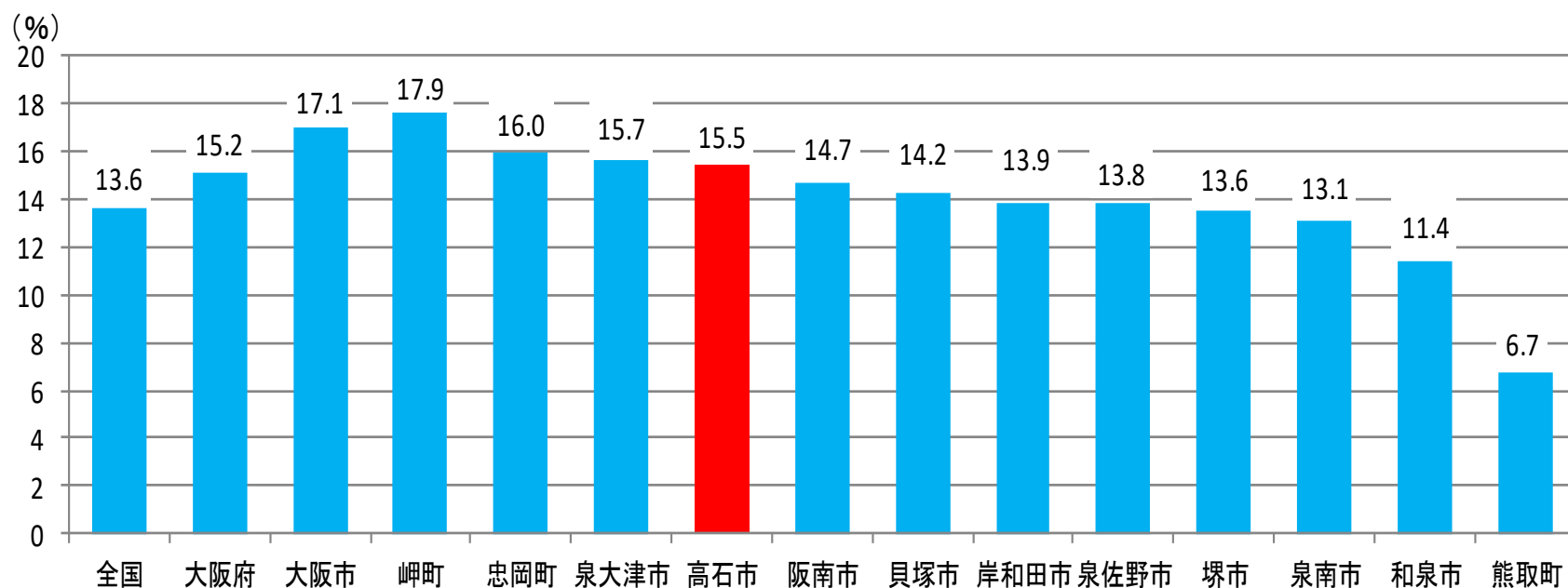
出典：総務省「住宅・土地統計調査」

高石市では、近年空き家数は4,000戸前後、空き家率は15%前後で推移しています。



3-1 住宅

空き家比率（泉州市町比較）



出典：総務省「住宅・土地統計調査」（平成30年）

高石市の空き家比率は、大阪府の平均と同程度となっています。

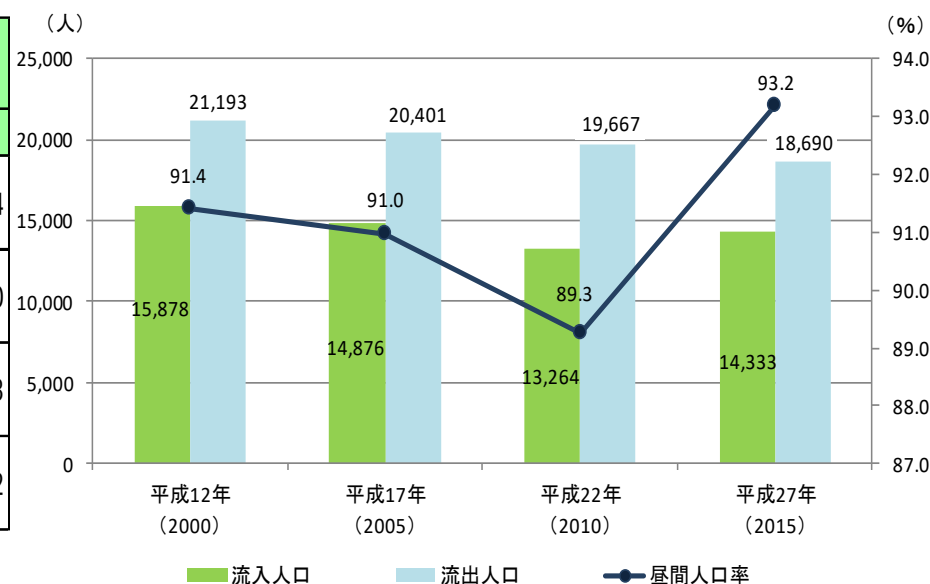
第3章 地域状況分析



3-2 観光・交流

昼間流入・流出人口及び昼間人口率の推移

	常住人口	流入人口			流出人口			昼間人口	
	総数	総数	通勤	通学	総数	通勤	通学	総数	指数
平成12年 (2000)	61,884	15,878	12,223	3,655	21,193	18,376	2,817	56,569	91.4
平成17年 (2005)	61,104	14,876	11,773	3,103	20,401	17,885	2,516	55,579	91.0
平成22年 (2010)	59,572	13,264	11,064	2,200	19,667	17,292	2,375	53,169	89.3
平成27年 (2015)	56,529	14,333	11,549	2,784	18,690	16,373	2,317	52,666	93.2



昼間人口＝常住人口＋流入人口－流出人口

昼間人口率：常住人口を100として計算

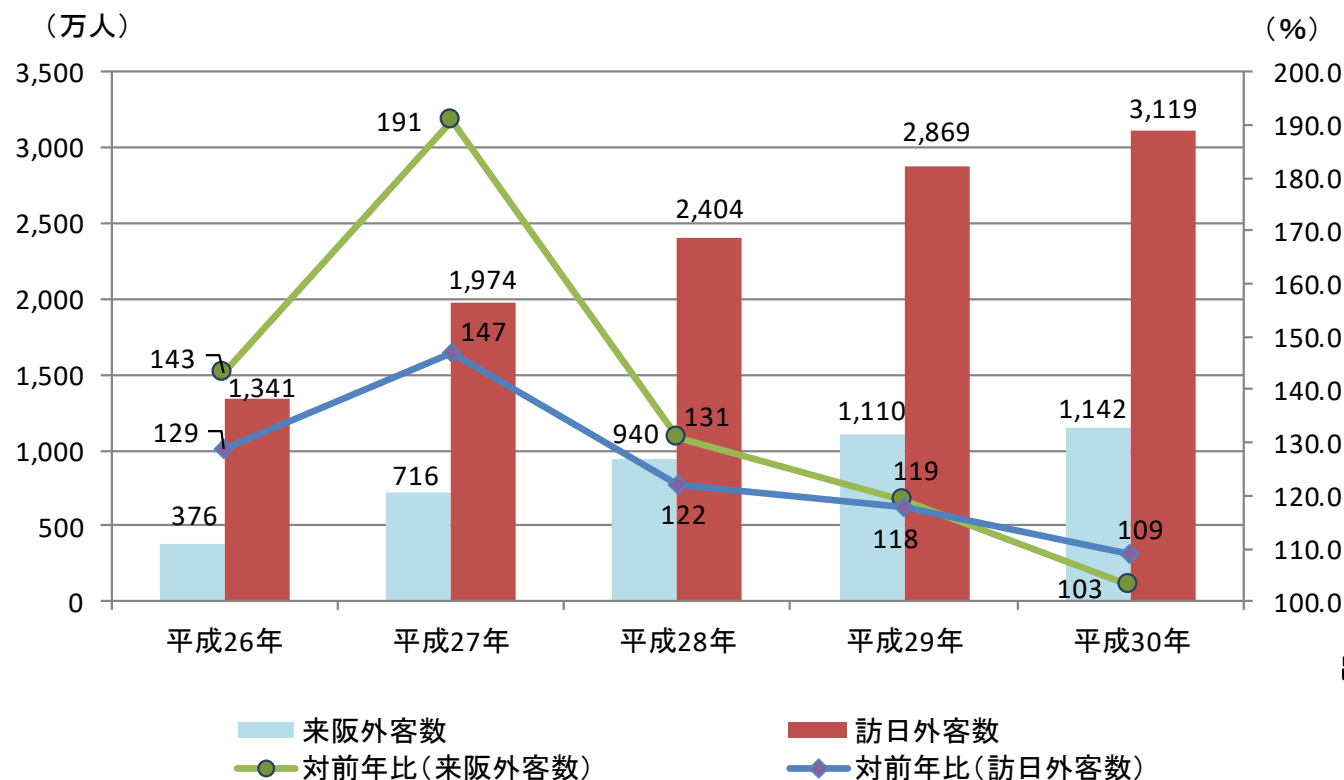
出典：総務省「国勢調査」

高石市では、昼間は流出人口が流入人口を上回り、近年、昼間人口率が減少傾向となっておりましたが、平成27年に上昇に転じています。



3-2 観光・交流

訪日外客数及び来阪外客数の推移



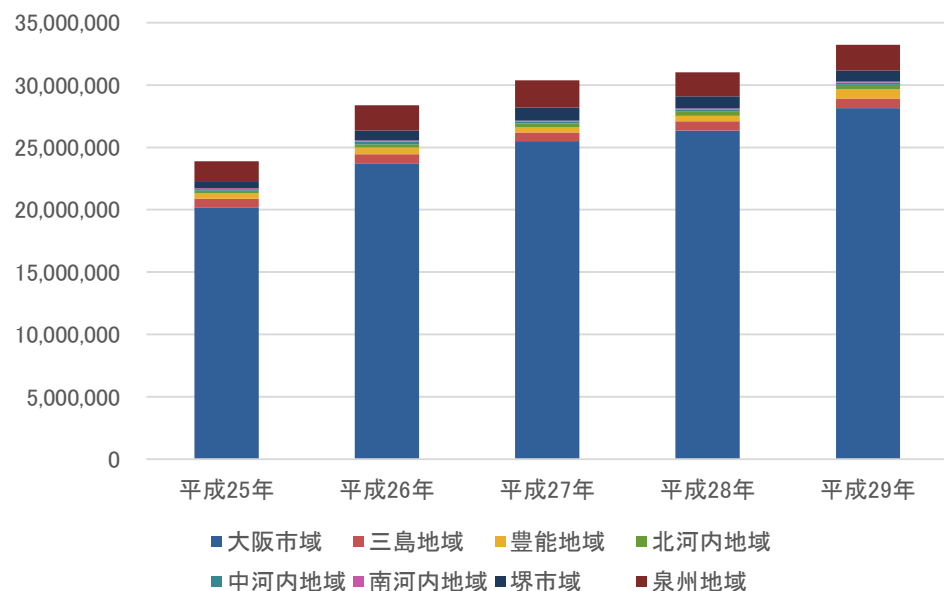
来阪外客数は、訪日外客数の増加とともに、増加傾向にあります。



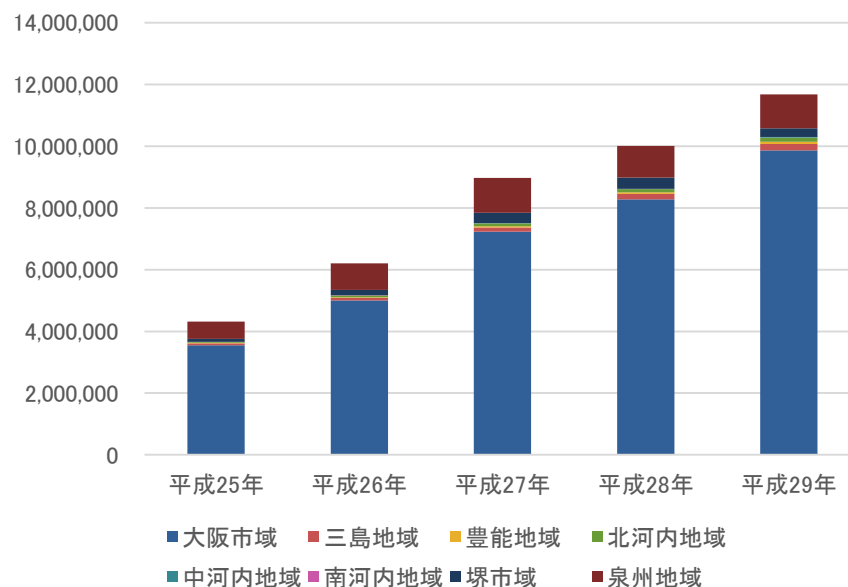
3-2 観光・交流

大阪の延べ宿泊者数・外国人延べ宿泊者数

延べ宿泊者数



うち外国人数



出典：大阪府「宿泊旅行統計調査」

大阪府全域の宿泊者数は、外国人宿泊者数の増加と共に順調に伸びておりますが、泉州地域の伸びは近年横ばいとなっています。

第3章 地域状況分析

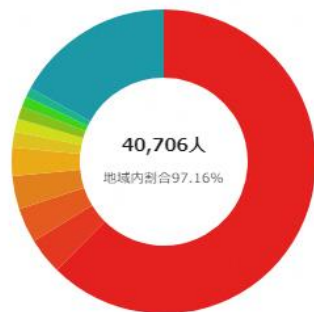


3-2 観光・交流

高石市の滞在人口の推移

平日の滞在人口数（令和元年）

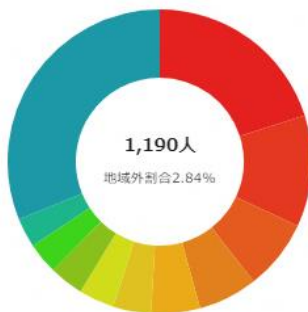
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 大阪府高石市 25,400人(62.40%)
- 2位 大阪府堺市西区 1,581人(3.88%)
- 3位 大阪府岸和田市 1,496人(3.68%)
- 4位 大阪府泉大津市 1,440人(3.54%)
- 5位 大阪府和泉市 1,222人(3.00%)
- 6位 大阪府堺市堺区 686人(1.69%)
- 7位 大阪府堺市中区 555人(1.36%)
- 8位 大阪府堺市南区 552人(1.36%)
- 9位 大阪府貝塚市 459人(1.13%)
- 10位 大阪府堺市北区 397人(0.98%)
- その他 6,918人(17.00%)

滞在人口 / 都道府県外

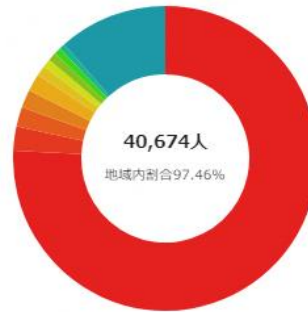


滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 和歌山県和歌山市 239人(20.08%)
- 2位 兵庫県尼崎市 141人(11.85%)
- 3位 兵庫県西宮市 89人(7.48%)
- 4位 兵庫県姫路市 75人(6.30%)
- 5位 兵庫県神戸市東灘区 62人(5.21%)
- 6位 兵庫県伊丹市 48人(4.03%)
- 7位 和歌山県岩出市 45人(3.78%)
- 8位 兵庫県洲本市 43人(3.61%)
- 9位 兵庫県神戸市西区 40人(3.36%)
- 10位 兵庫県宝塚市 37人(3.11%)
- その他 371人(31.18%)

休日の滞在人口数（令和元年）

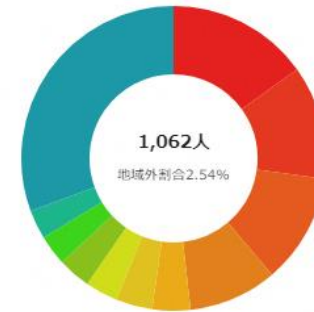
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 大阪府高石市 30,836人(75.81%)
- 2位 大阪府堺市西区 1,043人(2.56%)
- 3位 大阪府岸和田市 844人(2.08%)
- 4位 大阪府和泉市 778人(1.91%)
- 5位 大阪府泉大津市 756人(1.86%)
- 6位 大阪府堺市堺区 446人(1.10%)
- 7位 大阪府堺市中区 362人(0.89%)
- 8位 大阪府堺市南区 361人(0.89%)
- 9位 大阪府堺市北区 299人(0.74%)
- 10位 大阪府泉佐野市 241人(0.59%)
- その他 4,708人(11.57%)

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 和歌山県和歌山市 160人(15.07%)
- 2位 兵庫県西宮市 128人(12.05%)
- 3位 兵庫県尼崎市 124人(11.68%)
- 4位 兵庫県伊丹市 100人(9.42%)
- 5位 兵庫県明石市 43人(4.05%)
- 6位 兵庫県神戸市灘区 41人(3.86%)
- 7位 兵庫県川西市 37人(3.48%)
- 8位 兵庫県神戸市中央区 37人(3.48%)
- 9位 兵庫県宝塚市 34人(3.20%)
- 10位 兵庫県洲本市 33人(3.11%)
- その他 325人(30.60%)

※滞在人口とは、市区町村単位で滞在時間が2時間以上の人口

出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」

高石市では、休日よりも平日の方が滞在人口が多くなっています。また、大阪府外では和歌山県、兵庫県などの近隣県からの滞在が多くなっています。



3-3 就業

就業者数・就業率の推移

		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
男性	就業者数（人）	20,521	17,470	16,167	14,885	14,130
	就業率（%）	69.8	69.4	65.8	62.2	61.5
女性	就業者数（人）	11,783	10,562	10,648	10,348	10,561
	就業率（%）	36.3	38.8	39.3	38.7	40.9
総数	就業者数（人）	32,304	28,032	26,815	25,233	24,691
	就業率（%）	52.2	53.5	51.9	49.8	50.6

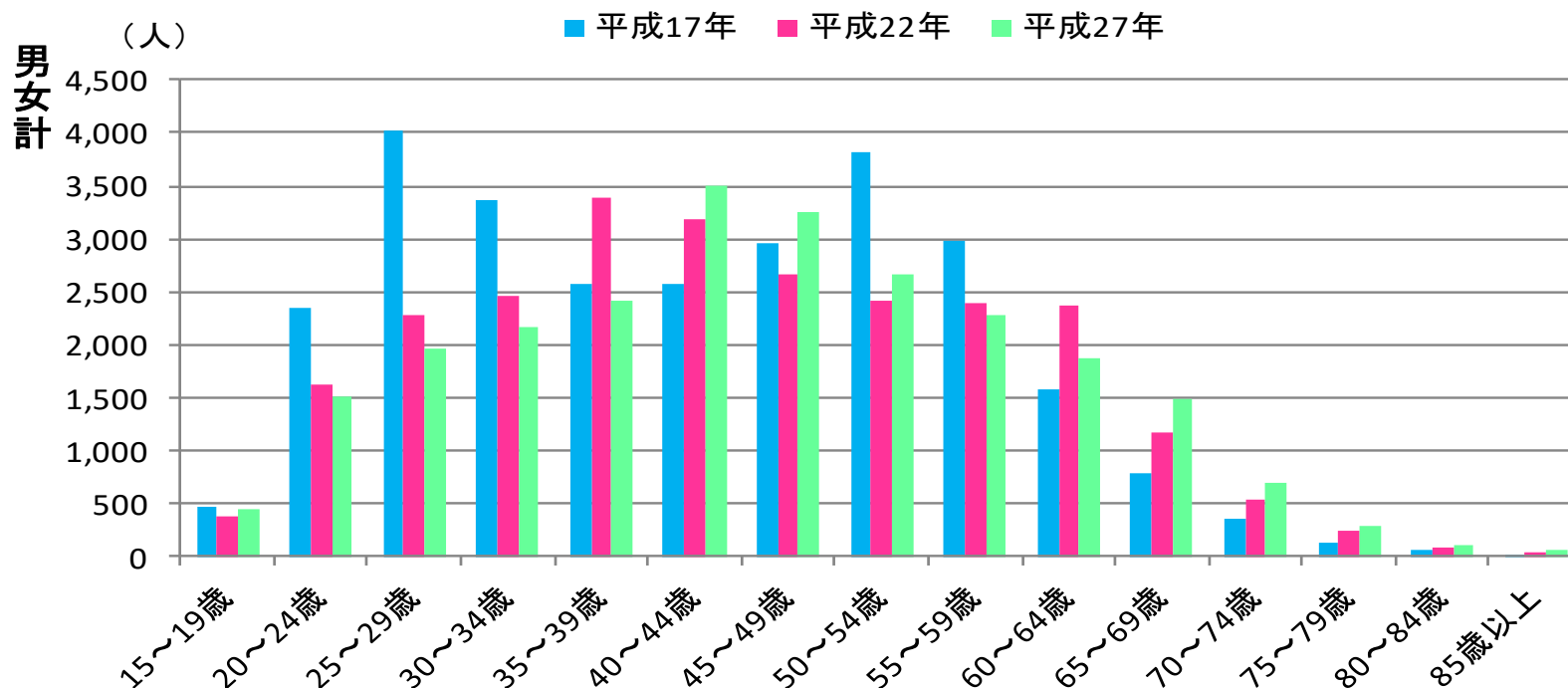
出典：総務省「国勢調査」

高石市では、男性の就業率が減少傾向にある一方、女性の就業率は平成27年に上昇に転じ、全体の就業率も上昇に転じています。



3-3 就業

年齢別就業者数の推移



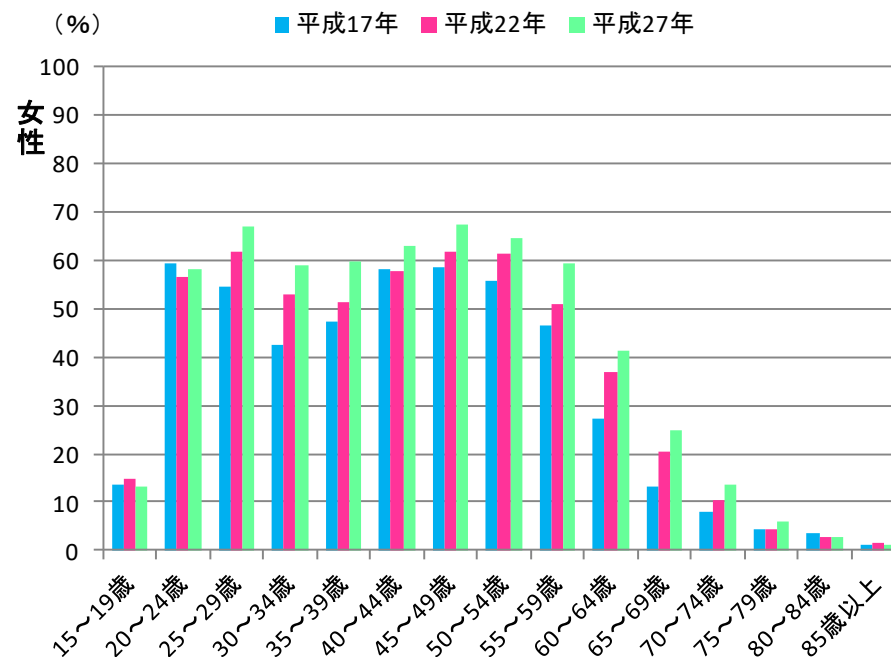
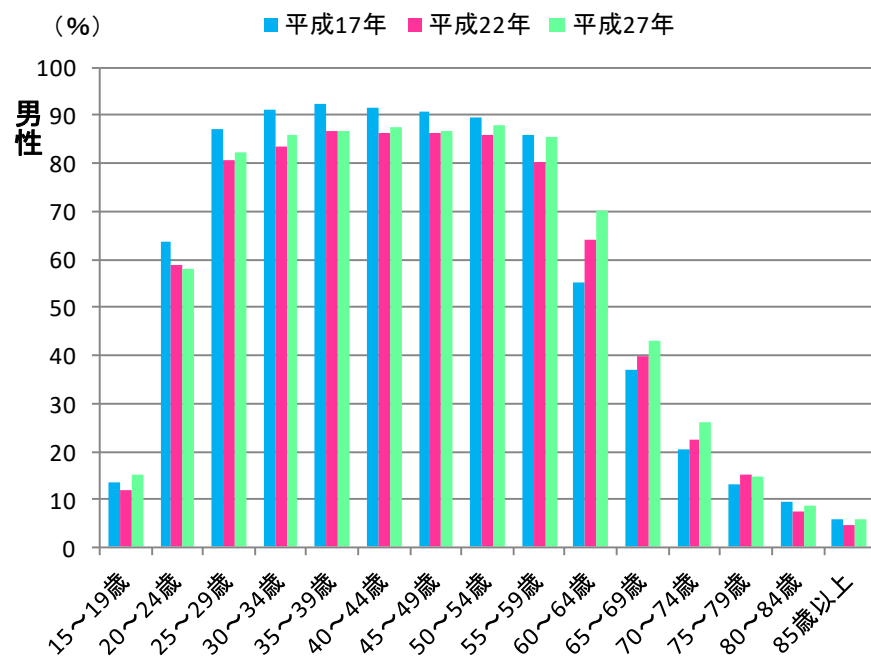
出典：総務省「国勢調査」

高石市の年齢別就業者数は、ばらつきはありますが、40歳未満では減少傾向にあり、65歳以上では増加傾向にあります。



3-3 就業

性別・年齢別就業率の推移



出典：総務省「国勢調査」

高石市の就業率をみると、男性の就業率は25歳から74歳までで平成27年に上昇に転じ、女性の25歳以上の就業率は年々上昇しています。

第3章 地域状況分析



3-3 就業

性別・就業形態別就業者の状況

区 分		人数（人）	男女別割合（%）	全体割合（%）	15歳以上人口に対する割合（%）
男	雇用者計	11,251	100	55.0	48.9
	正規職員	9,289	82.6	45.4	40.4
	非正規職員	1,962	17.4	9.6	8.5
女	雇用者計	9,213	100.0	45.0	40.1
	正規職員	3,925	42.6	19.2	17.1
	非正規職員	5,288	57.4	25.8	23.0
合計		20,464		100.0	

出典：総務省「平成27年国勢調査」より作成

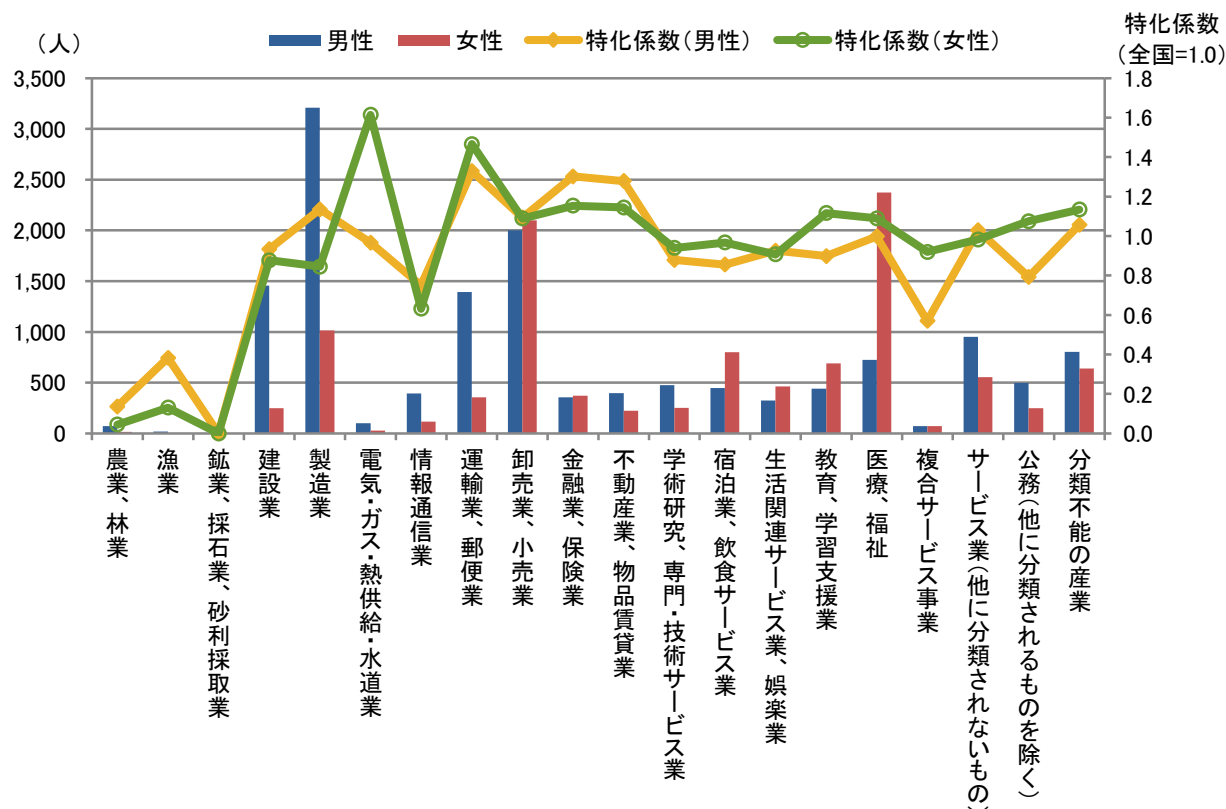
高石市の就業形態を見ると、女性の非正規職員の割合が多くなっています。

第3章 地域状況分析



3-3 就業

産業別人口（男女別）の状況



特化係数：高石市の産業別割合を全国の割合と比較した係数。特化係数が「1」の場合は、「当該産業の構成比が国と同じ」ということであり、「1」よりも大きい場合は、当該産業のウェイトが全国水準を上回っている。

特化係数＝高石市の産業別人口の構成比／全国の産業別人口の構成比

出典：総務省「平成27年国勢調査」

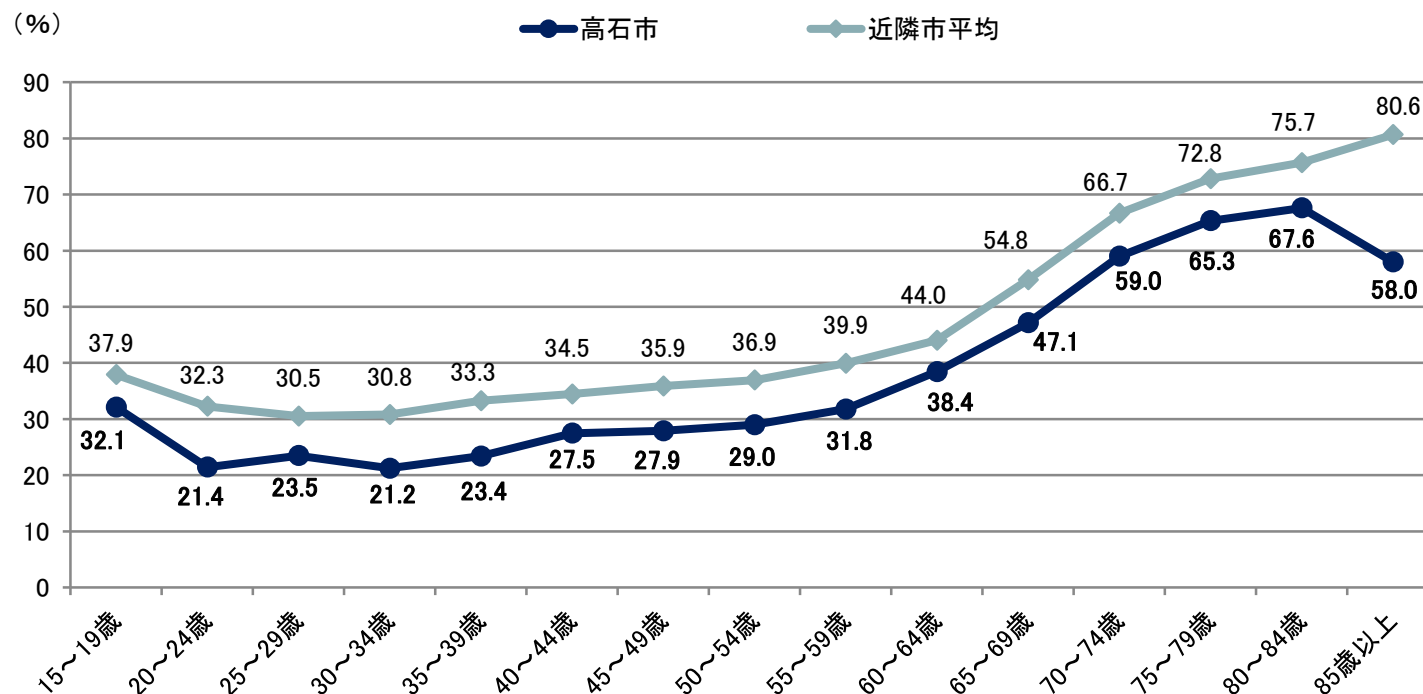
高石市では、男性は、製造業、卸売業・小売業、建設業、運輸業・郵便業、女性は卸売業・小売業、医療・福祉、製造業に携わる人口が多くなっています。



3-3 就業

自市内就業者割合（泉州市比較）

自市内就業者割合＝「自宅で就業」「自宅外の自市で就業」の計÷自
市内在住の就業者の総数



出典：総務省「平成27年国勢調査」より作成

高石市の自市内就業者の割合は、泉州の他の市よりも低くなっています。

第3章 地域状況分析



3-4 企業・事業所

企業数・事業所数

出典：RESAS地域経済分析システム

企業数			事業所数			従業者数		
単位：数			単位：数			単位：人		
平成24年	平成26年	平成28年	平成24年	平成26年	平成28年	平成24年	平成26年	平成28年
1,689	1,630	1,520	2,204	2,156	2,036	19,273	19,303	18,889

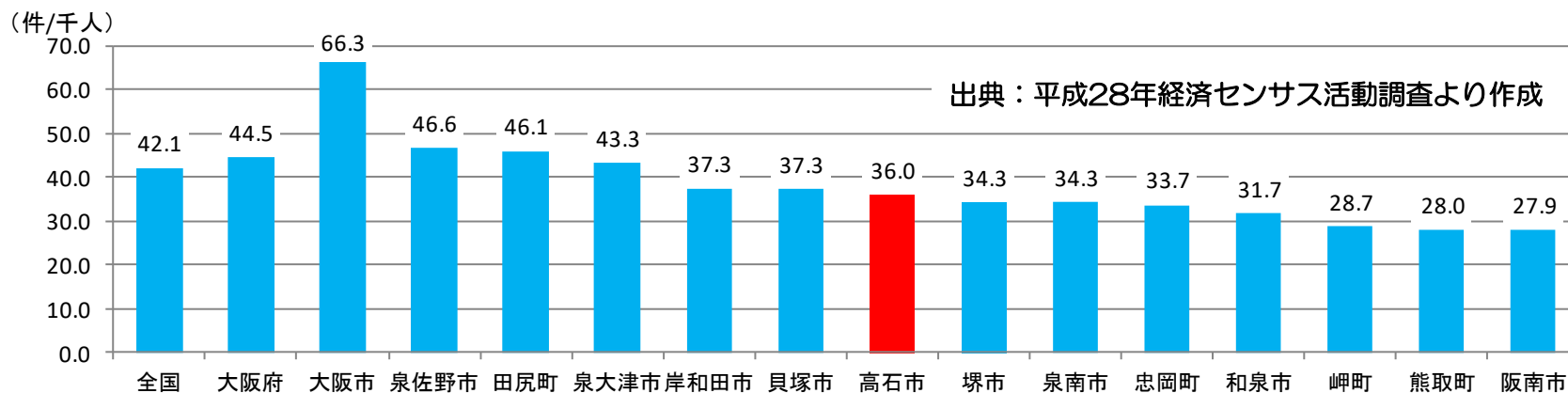
企業数：会社数と個人事業所を合算

事業所数：事業所とは、経済活動が行われている場所ごとの単位で、原則として次の条件を備えているものをいう。

1. 一定の場所（1区画）を占めて、単一の経営主体のもとで経済活動が行われていること。
2. 従業者と設備を有して、物の生産や販売、サービスの提供が継続的に行われていること。

従業者数：従業者とは、当該事業所に所属して働いている全ての人をいう。

人口千人あたり事業所数（泉州市町比較）

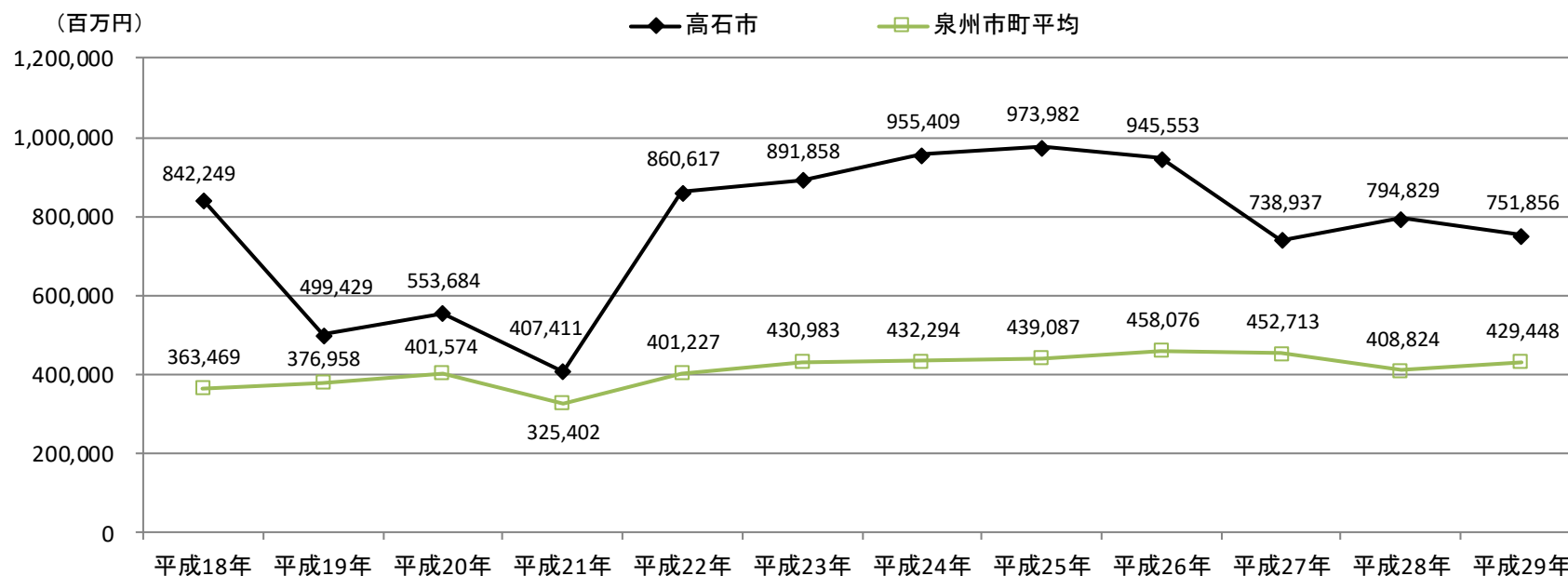


高石市の人口千人あたり事業所数は全国や大阪府平均より下回っていますが、泉州の他の市町との比較ではほぼ平均となっています。



3-4 企業・事業所

製造品出荷額等の推移



出典：経済産業省「工業統計調査」
※従業者4人以上の事業所

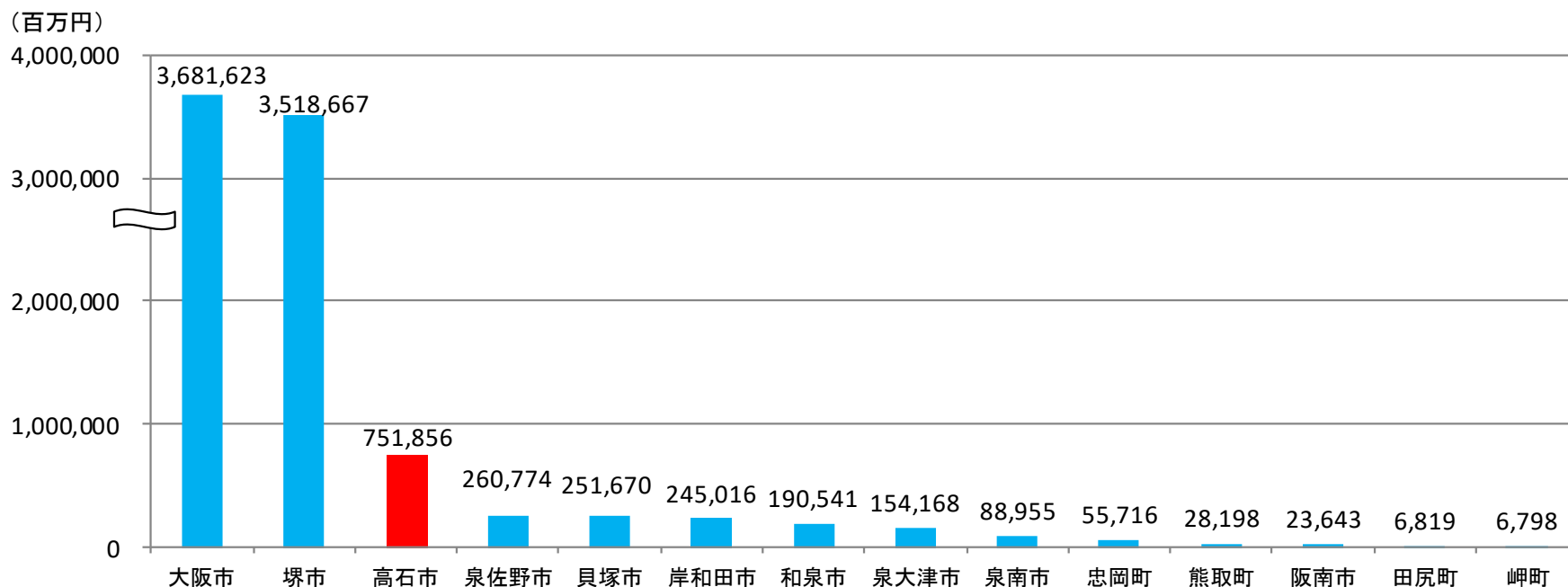
※製造品出荷額等とは、1年間（1～12月）における製造品出荷額、加工賃収入額、その他収入額及び製造工程からでたくず及び廃物の出荷額の合計であり、消費税等内国消費税額を含んだ額

高石市の製造品出荷額等は、平成26年以降にやや落ち込んでいますが、泉州の他の市町と比較すると高い額となっています。



3-4 企業・事業所

製造品出荷額等（泉州市町比較）



※従業者4人以上の事業所

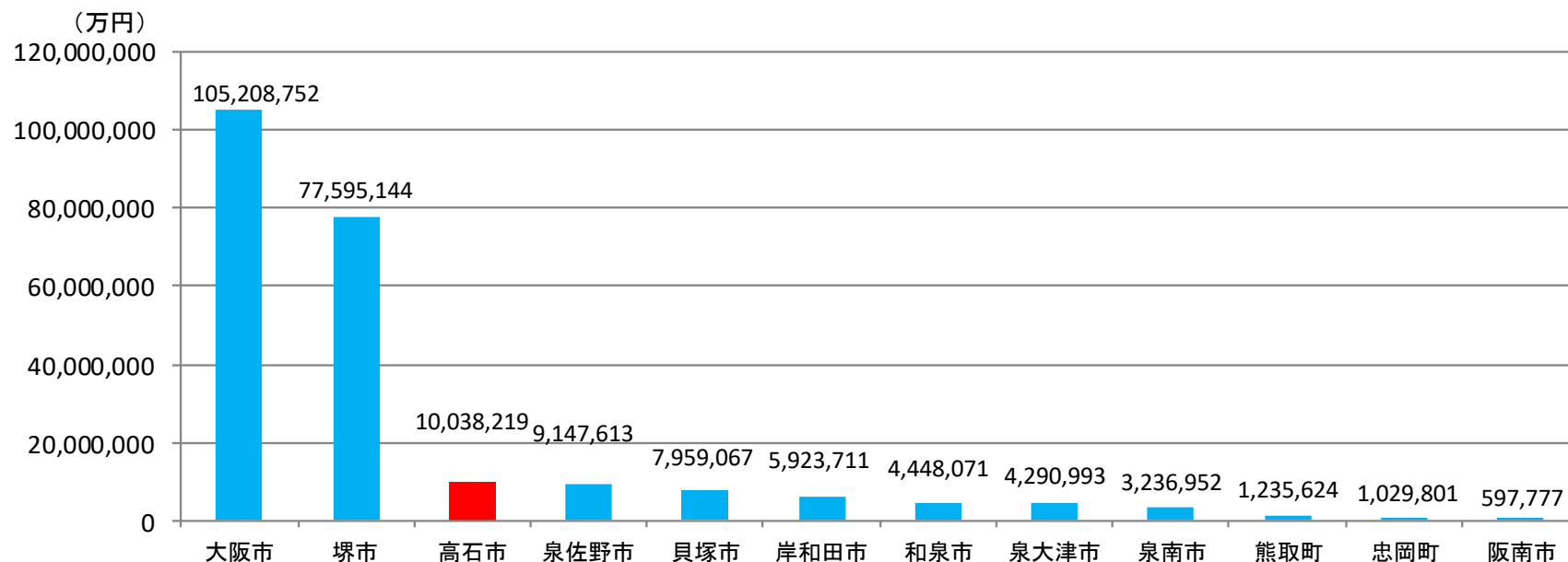
出典：経済産業省「工業統計調査」（平成30年調査：平成29年実績）

高石市の製造品出荷額等は、泉州の他の市町と比較して高い額となっています。



3-4 企業・事業所

付加価値額（泉州市町比較）



出典：大阪府「大阪の工業」（平成30年）

※付加価値額とは、企業の生産活動によって新たに生み出された価値のこと
(付加価値額＝売上高－費用総額＋給与総額＋租税公課)

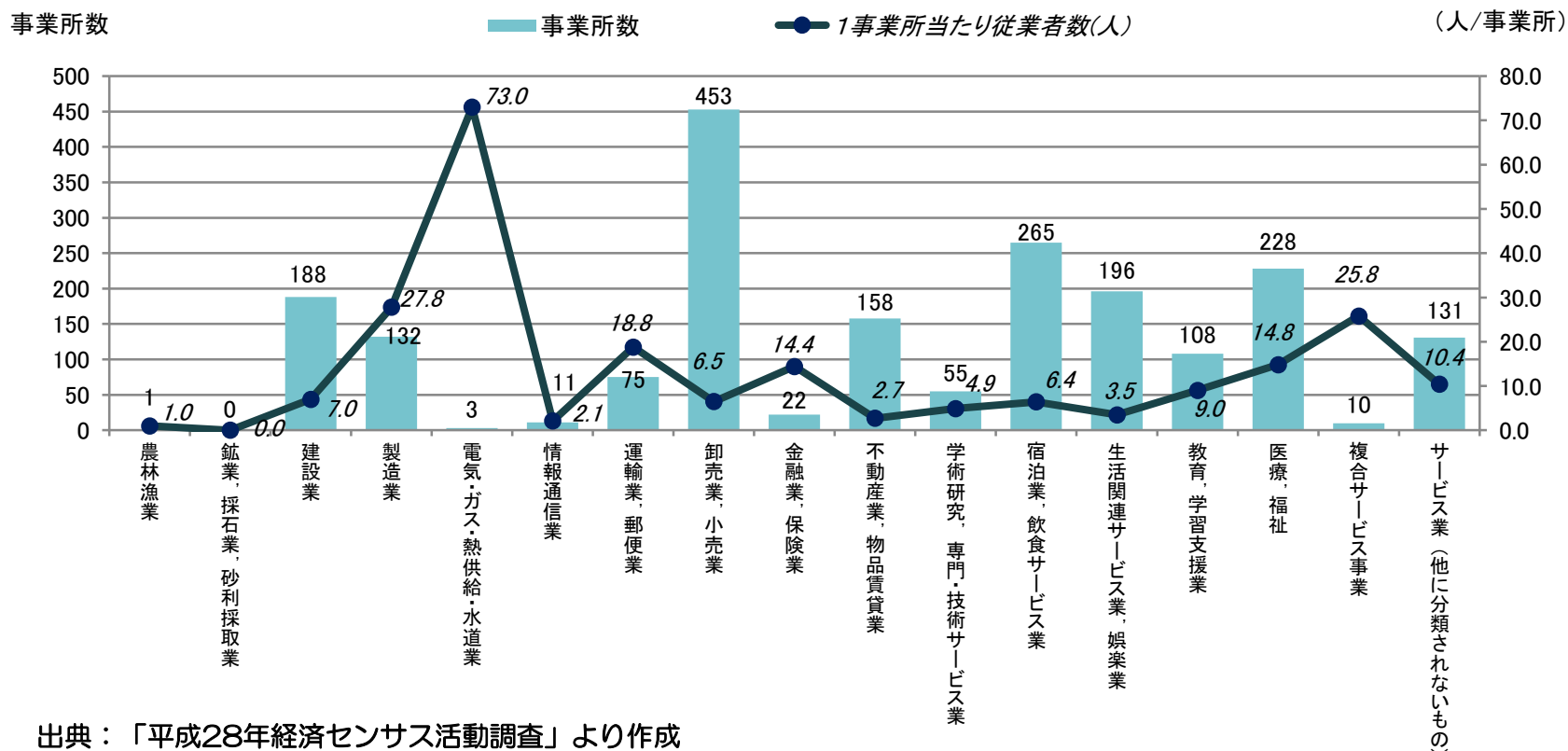
高石市の付加価値額は、泉州の他の市町と比較して高い額となっています。

第3章 地域状況分析



3-4 企業・事業所

産業別の事業所数



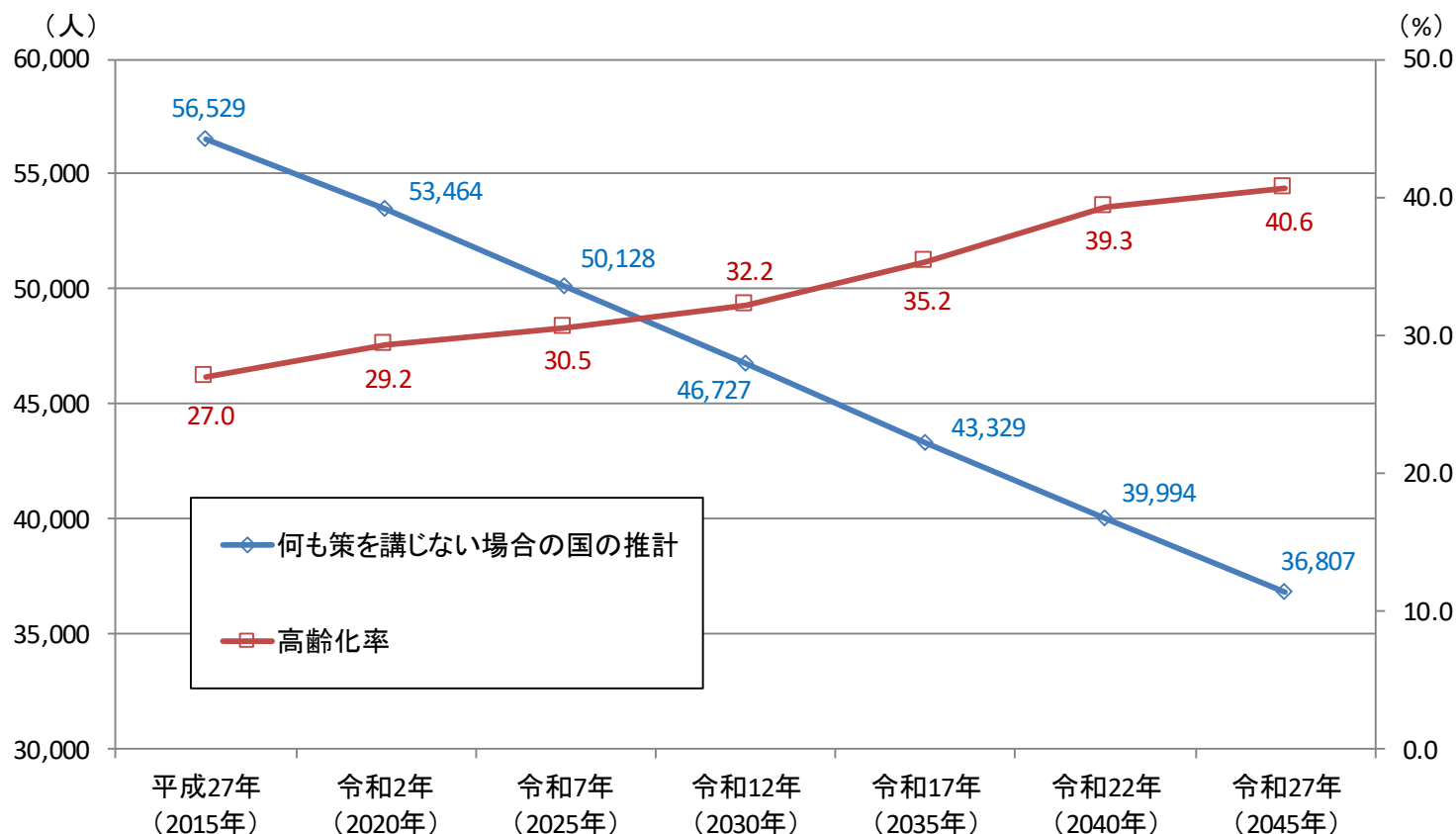
高石市の1事業所当たりの従業者数は、電気・ガス・熱供給・水道業が最も多くなっており、ついで製造業が多くなっています。

第4章 将来人口推計





4-1 国の長期ビジョンにおける人口推計



高石市の人口は、国の推計では何も対策を講じない場合は、令和27年に36,807人になるとされています。また、65歳以上の高齢者の割合は40.6%に上昇し、2.5人に1人が高齢者になると推測されています。



4-2 人口動向分析等に基づく高石市の状況の整理

出生数が減少

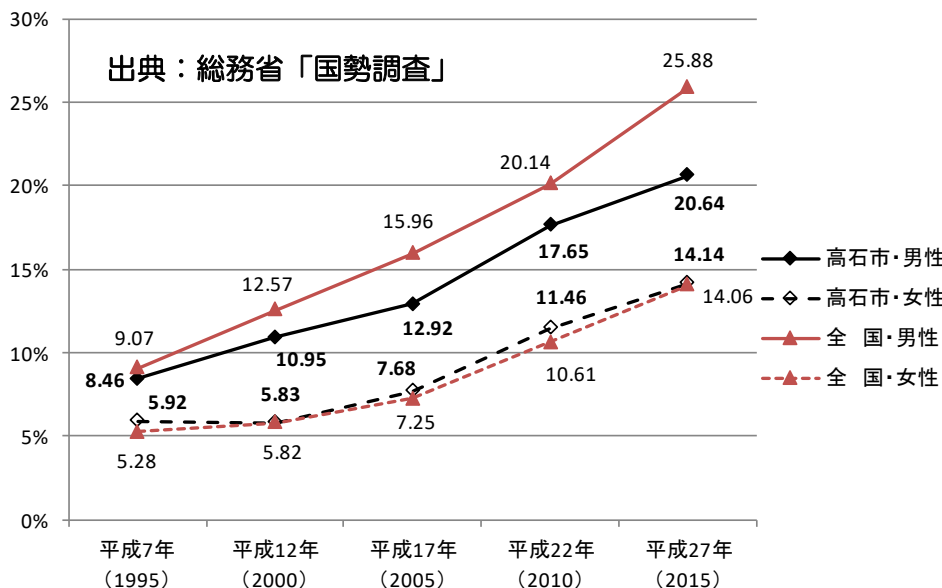
- 出生数は平成30年は平成12年と比較して半数以下まで減少しており、死亡数も増加していることから、平成23年から死亡数が出生数を上回り人口の自然減が生じています。
- 出生数の減少の原因として、団塊ジュニア世代以降の子育て世代人口の減少、婚姻率の低下が考えられます。子育て世代人口は社会増に転じた年もありますが、総数としては低いものとなっております。アンケート調査によると、育児への不安要素として、経済的・心理的負担が挙げられ、施策としても求められています。

第4章 将来人口推計



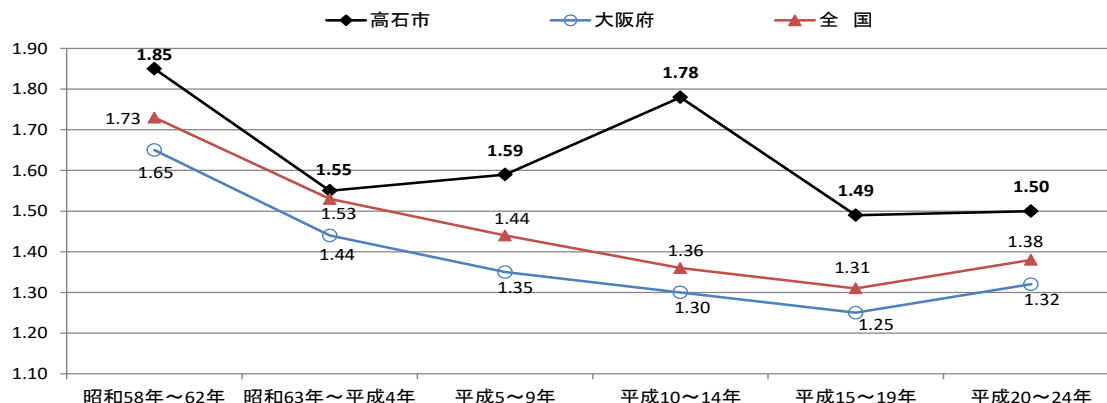
4-2 人口動向分析等に基づく高石市の状況の整理

高石市の生涯未婚率の推移

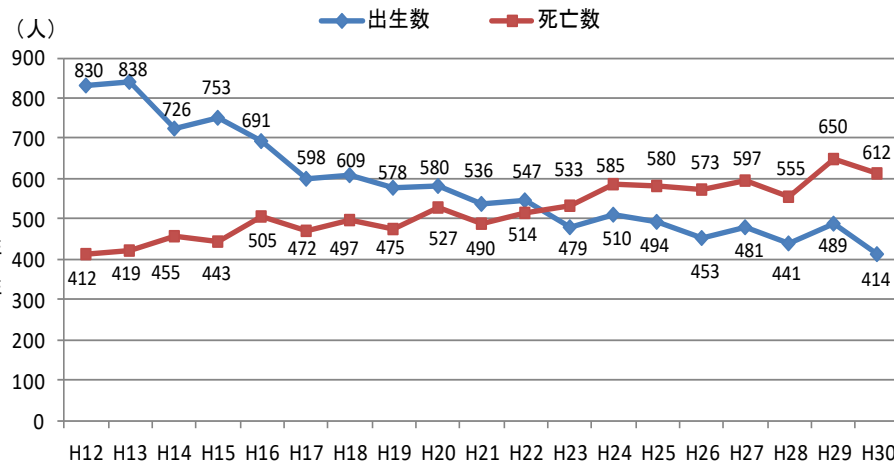


高石市の合計特殊出生率の推移

出典：厚生労働省「人口動態統計特殊報告（人口動態保健所・市区町村別統計）」



高石市の出生数・死亡数の推移



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

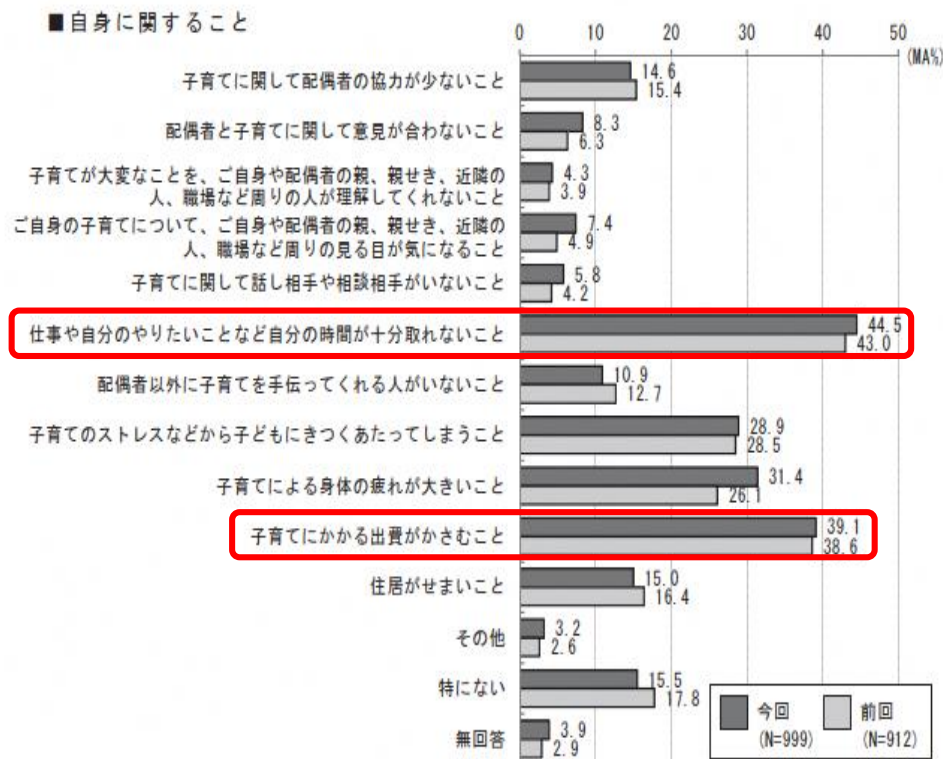
第4章 将来人口推計



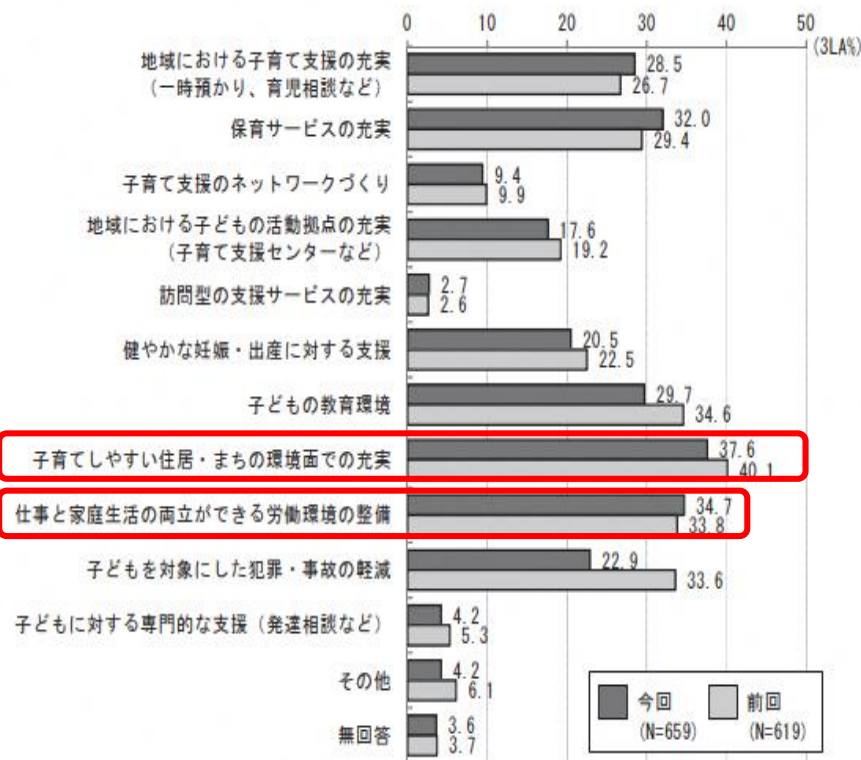
4-2 人口動向分析等に基づく高石市の状況の整理

子育てに関するアンケート結果

子育てについて悩んでいること（未就学児童）



子育てを「楽しいと感じる」人にとって、有効だと感じる施策（未就学児童）



出典：子ども子育て支援事業計画アンケート



4-2 人口動向分析等に基づく高石市の状況の整理

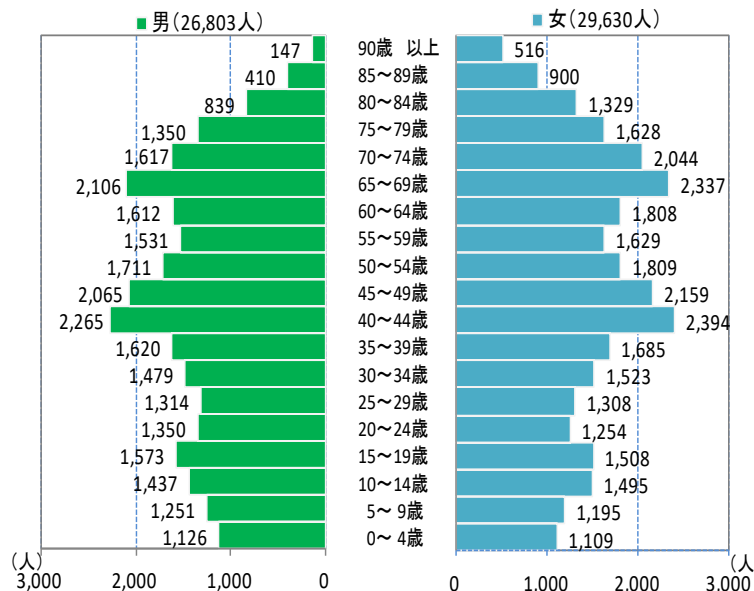
高齢者が急激に増加

- 高石市の人口構造は、団塊の世代や団塊ジュニア世代の層が特に厚く、近い将来に高齢者・後期高齢者が急激に増加することが予測されるため、これまで社会を支えていただいた方々ができる限り健康で活躍でき、また、地域で支え合う体制づくりが必要となっています。

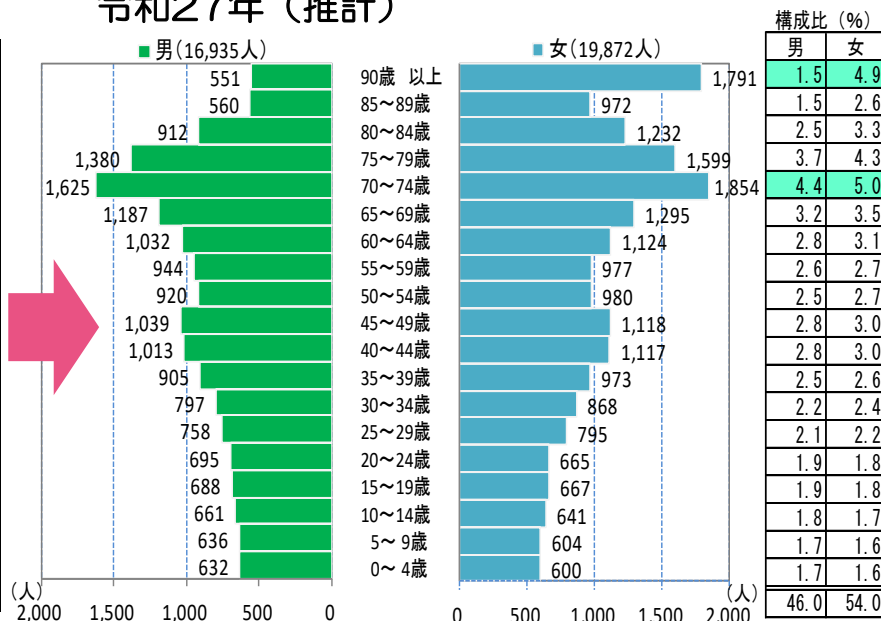
高石市の人口ピラミッド

出典：総務省「国勢調査」

平成27年



令和27年（推計）



第4章 将来人口推計



4-2 人口動向分析等に基づく高石市の状況の整理

20歳代・30歳代の転入超過

年齢別の市内への転入や市外への転出の状況をみると、転入・転出ともに、出産・子育ての中心となる20歳代や30歳代の移動が顕著にあらわれています。アンケート調査では、「交通の便がよいこと」・「安心して安全な場所であること」等が住む場所を考える理由として最も高いものとなっており、平成30年においては転入超過となっています。

高石市

	人口の総数	総転出数	総転入数	純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	4,871	204	242	38	4.2%	5.0%	0.8%
10歳～19歳	5,963	122	146	24	2.0%	2.4%	0.4%
20歳～29歳	5,802	680	718	38	11.7%	12.4%	0.7%
30歳～39歳	6,332	451	497	46	7.1%	7.8%	0.7%
40歳～49歳	9,100	276	264	▲12	3.0%	2.9%	▲0.1%
50歳～59歳	7,121	141	140	▲1	2.0%	2.0%	▲0.0%
60歳以上	18,743	196	207	11	1.0%	1.1%	0.1%

	男性人口	男性の転出数	男性の転入数	男性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	2,460	103	114	11	4.2%	4.6%	0.4%
10歳～19歳	2,984	52	85	33	1.7%	2.8%	1.1%
20歳～29歳	3,034	379	385	6	12.5%	12.7%	0.2%
30歳～39歳	3,160	251	280	29	7.9%	8.9%	0.9%
40歳～49歳	4,463	148	134	▲14	3.3%	3.0%	▲0.3%
50歳～59歳	3,485	79	77	▲2	2.3%	2.2%	▲0.1%
60歳以上	8,153	89	95	6	1.1%	1.2%	0.1%

	女性人口	女性の転出数	女性の転入数	女性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	2,411	101	128	27	4.2%	5.3%	1.1%
10歳～19歳	2,979	70	61	▲9	2.3%	2.0%	▲0.3%
20歳～29歳	2,768	301	333	32	10.9%	12.0%	1.2%
30歳～39歳	3,172	200	217	17	6.3%	6.8%	0.5%
40歳～49歳	4,637	128	130	2	2.8%	2.8%	0.0%
50歳～59歳	3,636	62	63	1	1.7%	1.7%	0.0%
60歳以上	10,590	107	112	5	1.0%	1.1%	0.0%

大阪府

	人口の総数	総転出数	総転入数	純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	715,310	33,804	31,612	▲2,192	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	810,258	20,611	22,595	1,984	2.5%	2.8%	0.2%
20歳～29歳	945,996	143,972	150,298	6,326	15.2%	15.9%	0.7%
30歳～39歳	1,065,982	91,793	89,361	▲2,432	8.6%	8.4%	▲0.2%
40歳～49歳	1,410,380	44,267	44,298	31	3.1%	3.1%	0.0%
50歳～59歳	1,090,630	24,793	24,722	▲71	2.3%	2.3%	▲0.0%
60歳以上	2,817,863	38,540	37,282	▲1,258	1.4%	1.3%	▲0.0%

	男性人口	男性の転出数	男性の転入数	男性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	366,324	17,282	16,093	▲1,189	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	414,169	10,678	11,542	864	2.6%	2.8%	0.2%
20歳～29歳	473,633	74,856	75,430	574	15.8%	15.9%	0.1%
30歳～39歳	530,668	49,147	47,848	▲1,299	9.3%	9.0%	▲0.2%
40歳～49歳	702,284	25,122	25,103	▲19	3.6%	3.6%	▲0.0%
50歳～59歳	542,235	14,153	14,236	83	2.6%	2.6%	0.0%
60歳以上	1,249,025	17,528	16,812	▲716	1.4%	1.3%	▲0.1%

	女性人口	女性の転出数	女性の転入数	女性の純移動数	転出数÷人口数	転入数÷人口数	純移動数÷人口数
0～9歳	348,986	16,522	15,519	▲1,003	4.7%	4.4%	▲0.3%
10歳～19歳	396,089	9,933	11,053	1,120	2.5%	2.8%	0.3%
20歳～29歳	472,363	69,116	74,868	5,752	14.6%	15.8%	1.2%
30歳～39歳	535,314	42,646	41,513	▲1,133	8.0%	7.8%	▲0.2%
40歳～49歳	708,096	19,145	19,195	50	2.7%	2.7%	0.0%
50歳～59歳	548,395	10,640	10,486	▲154	1.9%	1.9%	▲0.0%
60歳以上	1,568,838	21,012	20,470	▲542	1.3%	1.3%	▲0.0%

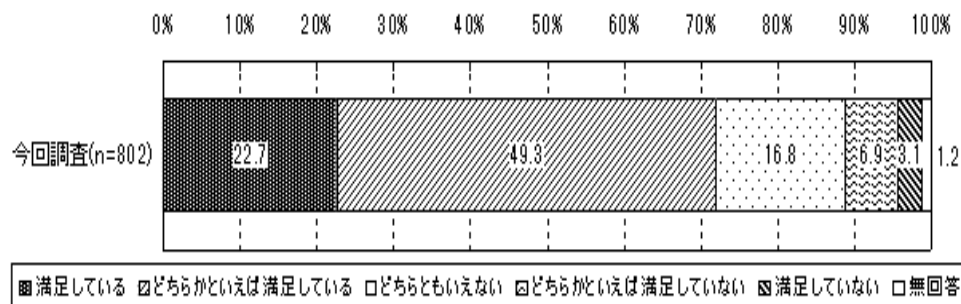
第4章 将来人口推計



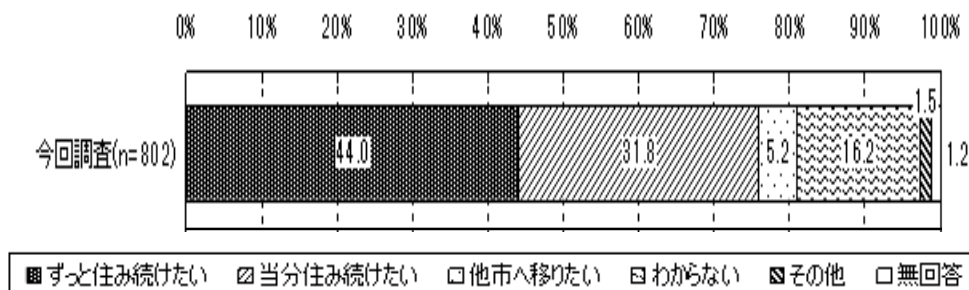
4-2 人口動向分析等に基づく高石市の状況の整理

高石市での暮らしについてのアンケートの結果

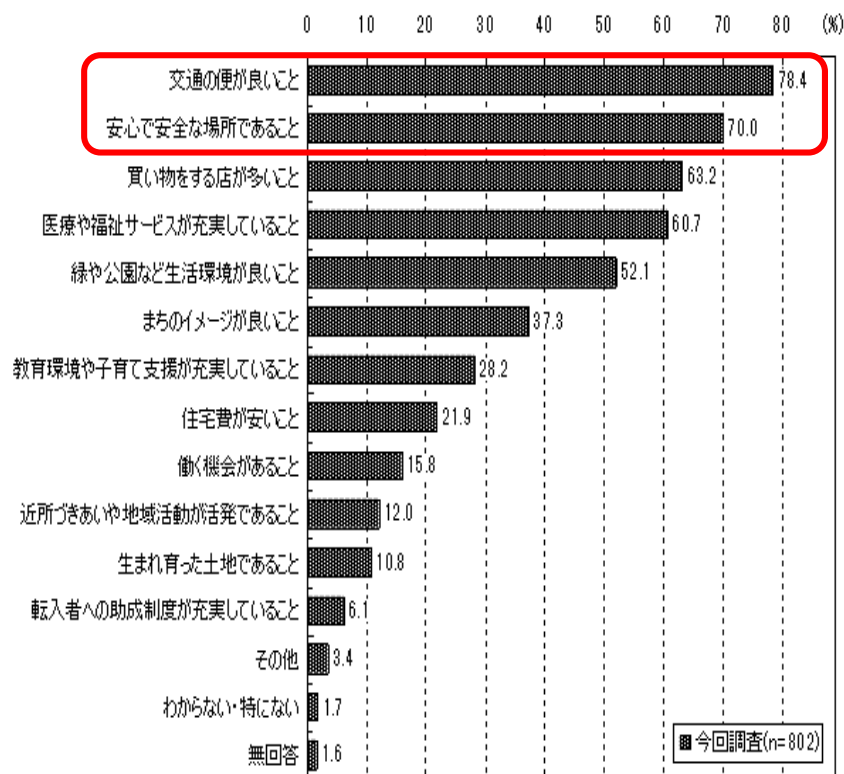
高石市の暮らしやすさについてどのように感じていますか。(1つ選んで○)



これからも高石市に住みたいと思いますか。(1つ選んで○)



住む場所を考える際にどのようなことを重視されますか。(あてはまるものをすべて選んで○)



出典：高石のまちに関するアンケート

第5章 めざすべき将来の方向性



第5章 めざすべき将来の方向性



5-1 高石市のめざすべき方向性

人口動向等より明らかになった本市の状況を踏まえて、次のとおり、めざすべき方向性として整理します。

本市の状況

- 出生数の減少
- 高齢者の急激な増加
- 転入数の停滞

方向性

- 働きながらでも子育てができる環境を整えるとともに、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める。
- いつまでも健幸にすごし、支え合いのできる地域づくりや安心・安全なまちづくりを進める。
- 子育て世代や同居近居を望む高齢世代に向けて、文教都市を始めとした魅力のPRや転入のきっかけづくりを進める。

方向性の考え方

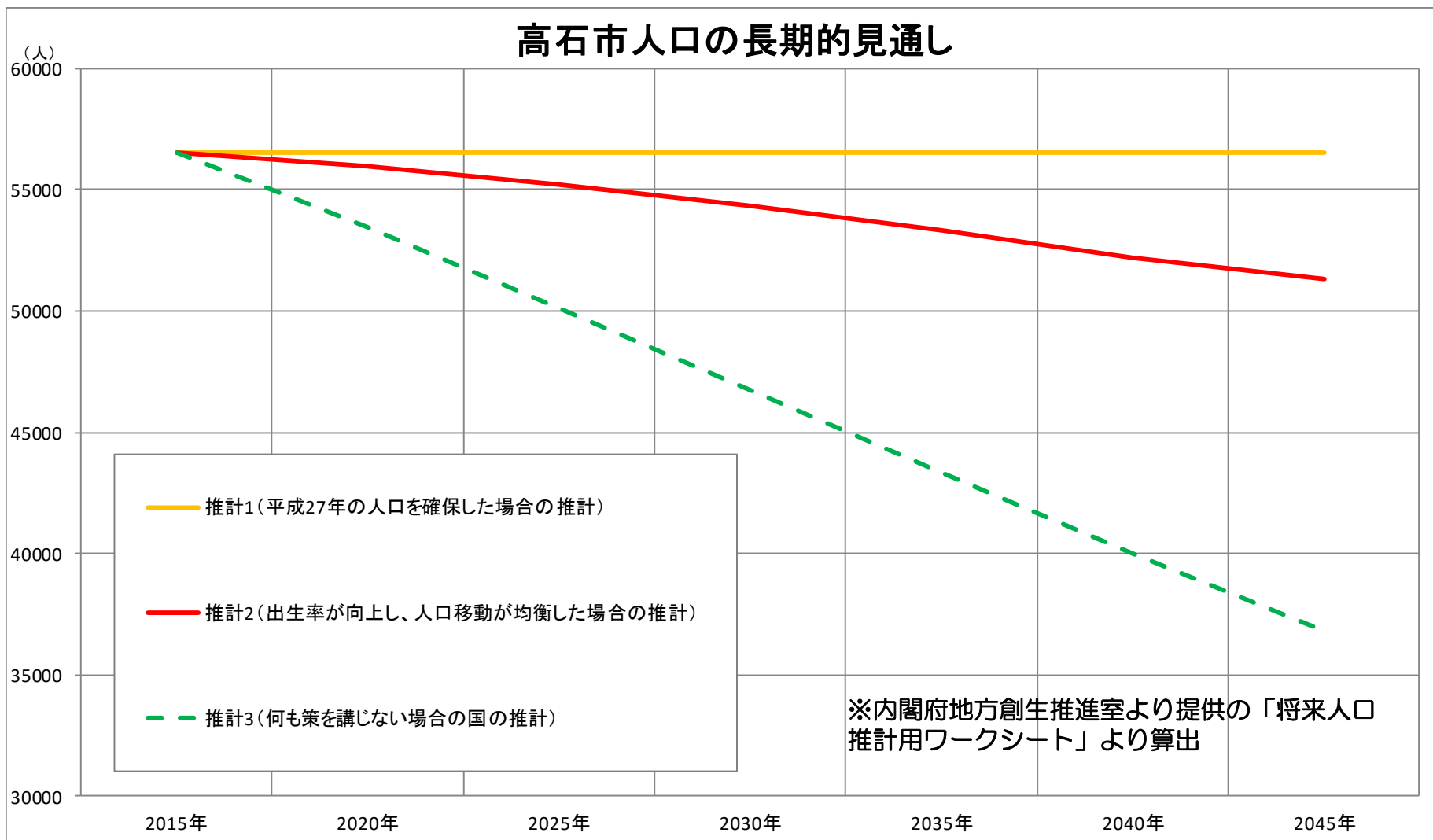
急速な高齢化を見据えて、高齢者が社会の支え手として活躍し、いつまでも健幸にすごしていくための地域づくりや安心・安全なまちづくりが必要です。また、子育て世代が安心して子どもを産み育てるためには、就業により安定した収入を確保し、働きながらでも子育てができる環境を整えることが必要です。さらに、大阪中心部へのアクセスがよく、利便性が高いまちであることに加えて、子育てしやすい環境が整った、文教都市として質の高い保育や教育が受けられるまちであることを子育て世代を中心にPRしていくことが必要です。併せて、高齢者にとって孫の世話をすることが生きがいになり、働く親にとって子育ての負担軽減になるといった相互に支えあう環境づくりを進めるため、「孫と一緒に住みたい」といった子育て世代と同居近居を望む高齢世代にとっても健幸のまちづくりなど、支援を行うことが必要です。

第2期に向けて

- 転入者数の増加等一定の成果はあるものの、まだまだ課題は残されています。第2期においても、第1期のめざすべき方向性は継続し、地方創生に取り組んでいくものとします。



5-2 めざすべき方向性を踏まえた将来人口推計





5-2 めざすべき方向性を踏まえた将来人口推計

- 国の長期ビジョンの推計に基づき、何も対策を講じない場合、推計3のグラフのような人口推移となります。
- 人口ビジョンの検証により明らかになった課題を解決するため、総合戦略に基づいて講じる施策の効果に応じて、以下のような将来人口の推計をしています。

【共通条件】

- ・ 平成27年の人口数については、総務省「国勢調査」の数値とします。
- ・ 出生率は、国の長期ビジョンにおける合計特殊出生率を踏まえ推計を行います。高石市の現在の出生率が国の平成30年時点の推計である1.42を達成していることから、令和6年に1.8程度、令和11年以降に人口置換水準の2.07を達成することとします（国は令和11年に1.8程度、令和21年に2.07を達成）。
- ・ 生残率は、国の長期ビジョンと同様の数値により推計します。
- 推計1は、純移動数の増加により、平成27年の人口を確保した場合を推計しています。
- 推計2においては、国の長期ビジョン同様に転入・転出による人口移動が均衡した場合を推計しています。